



花の都 フィレンツェ 2004.5.16.



水上の町ベニスで 2004.5.12.

5月10日から20日まで11日間ほどイタリアの街を訪ねるツアーに参加。

ミラノ・ヴェネチア・フィレンツェ・アッシジ・ローマの街を訪ねてきました。キリスト教と教会漬けの旅でしたが、勝手気ままなツアー 本当に楽しい旅。

やっぱり みんなが言うように フィレンツェの街 ビックリする美しさでした。

のどかな丘陵地の丘の上にある宗教都市・聖サンフランシスコの町「アッシジ」も素晴らしかったです。

また、知らなかったミケランジェロ レオナルド・ダ・ヴィンチ ラファエロ ガリレオなどフィレンツェでの接点と意外な側面も。

30年前 初めての出張でひとりローマに1週間に居たことがあるのですが、現地の人に連れて行ってもらった下町のレストラン 30年前貰ったカード片手に家内と探し当て訪ねました。

同じカードが今も使われていて マスターや街の人やちょうどアメリカ人のぐるーぶや街の人や一緒になって歌って盛り上がり帰りました。

ぼくらのツアーコンダクターが次ぎの言葉をくれましたが ほんとうにそんな感じです。

イタリアの街何年経っても変わらない。

親が自分の行った場所を子供に伝えて そして孫に。

みんな 何十年の時を経て、同じ場所に立って同じ写真が撮れ、感激してそれを次の世代に伝える。

イタリアはそんな素晴らしい街

お陰で写真ばかり撮ってかえたので その整理に3週間もかかって、その間何にもてずかすで・・・

恥ずかしいのですが、そんな写真整理しましたので、1,2ヶ月くらい home page に掲載します。

まだちょっとイタリアかぶれが、のこっているかも・・・



アッシジ 2004.5.16.



このイタリア旅行記は
「イタリア旅行記」
イタリアの古き町訪ねて
イタリアルネッサンスの巨人の足跡
として、別冊にまとめています。

1. イタリアの古き町を訪ねて walk (概要 PDF file) 2004.5.11.-20.

訪問先欄の都市名をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

訪問先	walk points	滞在日
↑↑ ミラノ Walk	ドゥオモと「最後の晩餐」	5.10.夕 - 5.12.朝
↑2 ヴェニス Walk	ゴンドラと水上の街walk	5.12.昼 - 5.14.朝
↑3 フィレンツェ Walk	花の都walk 街とルネッサンス	5.14.朝 - 5.16.朝
↑4 ピサ半日ツアー	ピサの斜塔とガリレオ	5.15.午後
↑5 アッシジ Walk	聖フランシスコを訪ねて	5.16.終日
↑6. ローマ Walk	ローマWalk バチカンと街角	5.18.夜 - 5.19.朝
↑7 カプリ ツアー	海の青・街の白・山の緑 カプリ島	5.18.終日
教会にこだまする響き	ピサで素晴らしい響きの歌声が採れました	ピサの教会ドームに響く歌声

2. イタリア ルネッサンスの巨人の足跡 (概要 PDF file)

● 巨人の足跡

2. ルネッサンス 巨人の足跡	フィレンツェで甦った巨人たち	レオナルド・ダ・ビンチ ミケランジェロ ラファエロ ガリレオ・ガリレイ
2.1 レオナルド・ダ・ビンチ	天才画家・多能科学者 実証近代科の天才先駆者	愛知右知 豊後朝義 セナリザ
2.2 ミケランジェロ	天才芸術家(画家・彫刻家・建築家)	ダビデ像 ピエタ像 最後の審判
2.3 ラファエロ	聖母画家 西洋絵画の基準	ヒワの聖母 レオ10世
2.4 ガリレオ・ガリレイ	近代科学の父	地動説・振り子の等時性・ピサ斜塔の落下実験

● イタリアの街角で巨人を訪ねて

3.1 レオナルドダビンチ 「最後の晩餐」 画廊を訪ねて ミラノ
3.2 天才芸術家・科学者 ミケランジェロの作品をフィレンツェ・バチカンの街を訪ねて
3.3 聖母画家 ラファエロ 「ヒワの聖母」をフィレンツェ ウィッツイ美術館を訪ねて
3.4 近代科学の父 ガリレオ・ガリレイをピサの街を訪ねて

項目をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

● イタリアの街角で 知らないのは僕だけかも・・・



びっしり詰まった縦列駐車 ローマの街で 電車・車・三輪車・バス・自転車 平面通行 ミラノで

- ◆ 知らないのは僕だけかも知れませんが イタリア ミラノについたら 目と鼻がおかしい。
花粉症の症状。恐る恐る聞くとイタリアは花粉症 大有りと。乗ったバスの運転手氏も花粉症で涙
だしていました。 ミラノの町は ちょうど ポプラの綿が飛ぶ季節。
風花のように 白い綿毛が 街の空を飛び交っていました。
ついでに 日本に「黄砂」があるように イタリアでは「サハラ」の砂が飛んでくると
車がすすけているのもそれだというのですが、国民性かも・・・・・・
- ◆ イタリアの町に並ぶギシギシ隙間の無い縦列駐車。どないして 車だすねんと・・・・・・。
「今日 車出すのに 友達のベンツにちょっと挨拶したら 凄く怒られた。 バンパーは何の為
にあるのか・・と言うのですがね」という御仁 が 神戸の友達にいて「そんなあほな・・・」
といていましたが、イタリア あちこちで、僕の見てる前で前後の車に挨拶して広げて縦列駐車
から離れてゆきました。 ゴリツパ となにか 感激
- ◆ イタリアの古い街 フィレンツェも ミラノも ローマも 城壁の中の旧市街地 車規制もそうで
すが、まったく新しいデザインも高いビルもなし。一戸建ての家もなし。
高層ビルのオフィス街も派手なビルもなし。みんな昔のビルに埋もれて・・・
昔から 大きな高い建物は教会のキョポラと鐘楼。 それより大きいのが変わった建物建てるつぶ
っ壊されたという。そんな 都市国家 ホテルだけでなく 宮殿までもが・・・
生活は外から見ると大変らしい。
「電子レンジでチンする」といった文化なし。クーラーも洗濯機もままならぬ。
テレビと一緒にみんなつけたらヒューズ飛んでしまうそうである。 電化生活したかったら郊外へ
というのだそうだ。
でも みんな 街に住みたがる。 「街が好きだから 街を愛しているから」だそうだ。
- ◆ そういえば 大きな工場も無く、高速道路はあるが、物流が頻繁とも思えない。経済本当にまわっ
ているのか。。。。と
でも 生活厳しいようですが、みんな陽気で楽しそう。昔みたいに 公園で寝てる人 見かけない。
「みんな 先考えず 今を楽しんでいるからや みんな 今 楽しんでいる」という。不思議で
ある。 よくよく聞くと 大企業はそれこそフィアットグループ程度でそれもダウン。95%が中小地
域企業。若くしてみんなその町で働く。大学出は 15% 程度。1/3 は中学出ると直ぐ街で働くと。そ
れほど街を出ないし、通勤族など考えられないという。
これで僕の疑問も解消。
都市間交通 物流も地域で動けばよい。中央のオカミいらぬ。 わが街を愛すである。大多数の人
たちにとっては、都市国家が今も生きている。ちょっと 考えさせられました。
日本でも 今スローライフが叫ばれ、価値観が変わりつつありますが、価値観がこんなに生活変え
ているとはビックリでした。

イタリア旅行記



フレンドリー エンジョイ イタリア 11日間 2004.5.11.-5.20.



By Mutsuo & Kikuko Nakanishi

フレンドリー ツア エンジョイ イタリア 11日間

2004.5.10.-20.



フレンドリー ツア エンジョイ イタリア 11日間 2004.5.10.-20.



- ◆ ミラノ
- ◆ ヴェネツィア
- ◆ フィレンツェ
 - ピサ半日ツアー
- ◆ アッシジ
- ◆ ローマ
 - カプリ島半日ツアー

月 日	都 市	移動・主要スケジュール
5.10. (月)	関空発 アムステルダム発 ミラノ着	KLN 88 :10:30→15:15 KLN1831:18:10 :19:00
5.11. (火)	ミラノ	午前：専用バス 市内観光 午後：自由行動 ● 昼食の残飯見学ツアー
5.12. (水)	ミラノ/ベニス	午前：専用バス 移動 ベニス観光 徒歩・船 午後：ベニス観光 徒歩
5.13. (木)	ベニス	午前：自由行動
5.14 (金)	ベニス/フィレンツェ	午前：汽車移動 午後：専用バス 市内観光
5.15 (土)	フィレンツェ	午前：自由行動 午後 ● ピサ半日観光
5.16. (日)	フィレンツェ/ローマ	午前：専用バス 移動 ● アッシジ 観光 午後：専用バス 移動
5.17. (月)	ローマ	午前：専用バス 市内観光 午後：自由行動 ● ローマ市内観光
5.18. (火)	ローマ	● カプリ島ツアー
5.19. (水)	ローマ発 アムステルダム	AZ-108 :11:45→11:45 KL-887:14:25
5.20. (木)	関空着	08:35

1. イタリアの古き町を訪ねて walk (概要 PDF file) 2004.5.11.-20.

訪問先欄の都市名をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

	訪 問 先	walk points	滞 在 日
1.1	ミラノ Walk	ドゥオモと「最後の晩餐」	5.10.夕 - 5.12.朝
1.2	ヴェニス Walk	ゴンドラと水上の街walk	5.12.昼 - 5.14.朝
1.3	フィレンツェ Walk	花の都walk 街とルネッサンス	5.14.朝 - 5.16.朝
1.4	ピサ半日ツアー	ピサの斜塔とガリレオ	5.15.午後
1.5	アッシジ Walk	聖フランシスコを訪ねて	5.16.終日
1.6	ローマ Walk	ローマWalk バチカンと街角	5.16.夜 - 5.19.朝
1.7	カプリ ツアー	海の青・街の白・山の緑 カプリ島	5.18.終日
	教会にこだまする響き	ピサで素晴らしい歌声が聴かれました	ピサの教会ドームに響く歌声
	ベニス ゴンドラ	ゴンドラによる運河めぐりのビデオ	ゴンドリエの歌声

「教会にこだまする響き」はビデオ ファイルのため、少し時間がかかります

2. イタリア ルネッサンスの巨人の足跡 (概要 PDF file)

● 巨人の足跡

22.	ルネッサンス 巨人の足跡	フィレンツェで競いあった巨人たち	レオナルド・ダ・ビンチ ミケランジェロ ラファエロ ガリレオ・ガリレイ
2.1	レオナルド・ダ・ビンチ	天才画聖・多能科学者 実証近代科の 天才先駆者	受胎告知 最後の晩餐 モナリザ
2.2	ミケランジェロ	天才芸術家(画家・彫刻家・建築家)	ダビデ像 ピエタ像 最後の審判
2.3	ラファエロ	聖母画家 西洋絵画の基準	ヒワの聖母 レオ10世
2.4	ガリレオ・ガリレイ	近代科学の父	地動説・振り子の等時性・ピサ斜塔の 落下実験

● イタリアの街角で巨人を訪ねて

[レオナルドダビンチ「最後の晩餐」鑑賞を訪ねて ミラノ](#)
[天才芸術家・科学者 ミケランジェロの作品をフィレンツェ・バチカンの街を訪ねて](#)
[聖母画家 ラファエロ「ヒワの聖母」をフィレンツェ ウィッツイ美術館を訪ねて](#)
[近代科学の父 ガリレオ・ガリレイをピサの街を訪ねて](#)

項目をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

1. イタリアの古き町を訪ねて walk (概要 PDF file) 2004.5.11.-20.

訪問先欄の都市名をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

	訪 問 先	walk points	滞 在 日
1.1	ミラノ Walk	ドゥオモと「最後の晩餐」	5.10.夕 - 5.12.朝
1.2	ヴェニス Walk	ゴンドラと水上の街walk	5.12.昼 - 5.14.朝
1.3	フィレンツェ Walk	花の都walk 街とルネッサンス	5.14.朝 - 5.16.朝
1.4	ピサ半日ツアー	ピサの斜塔とガリレオ	5.15.午後
1.5	アッシジ Walk	聖フランシスコを訪ねて	5.16.終日
1.6	ローマ Walk	ローマwalk バチカンと街角	5.16.夜 - 5.19.朝
1.7	カプリ ツアー	海の青・街の白・山の緑 カプリ島	5.18.終日
	教会にこだまする響き	ピサで素晴らしい歌声が採れました	ピサの教会ドームに響く歌声
	ベニス ゴンドラ	ゴンドラによる運河めぐりのビデオ	ゴンドリエの歌声

「教会にこだまする響き」はビデオ ファイルのため、少し時間がかかります

MILANO ミラノ

2004.5.11.

ファッションと産業デザインで有名なまち 人口：126万人
紀元前4世紀にケルト人の作った集落が起源。ローマ時代にはメディオ
ラヌムの名で北イタリアの中心都市として繁栄し、12世紀には自治都
市として発展した。

13世紀後半から、130年に渡って君臨したヴィスコンティ家とその継
承者スフォルツァ家は、ミラノの秩序を整え、地位向上に貢献し、天才
ダ・ヴィンチやブラマンテを招き、ミラノにルネッサンス文化の華を咲
かせた。第二次世界大戦でかなり破壊されたが近代的な都市として再生。

人口はローマに次ぐが、イタリア最大の商工業圏「大ミラノ都市圏」を形成し、ファッションと産業デザインは世界的に有名。



イタリアの産業の中心都市でありながら、ドゥオーモを中心として放射状に広がる狭い道に
歴史的建造物と旧市街が今も街の中心を占め、その中であって「ミラノ ファッション」の
斬新なデザインのセンスが街のあちこちにキラリと光る街である。

でも 落書きの多さと駐車禁止を無視した自動車の密着縦列駐車群にはビックリ。
街では今 アカシヤの花が咲き、プラタナスが実をつけ、樹木の緑が素晴らしい季節。
青空にポプラの綿毛が風花のように舞う。僕の眼と鼻がおかしくなったのはこの花粉症
か。。。。。。黄砂ではないが、サハラ砂漠の砂も舞う。
やっぱり、日本的である。 そういえば、到着前 飛行機からはポー川沿いに広がる平野に
は無数の水田が夕日に映えていた。

ミラノでは街のシンボル 巨大な教会「ドゥオーモ」とその中のステンドグラスの素晴らしさ・サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会にあるレオナルド・ダ・
ヴィンチの「最後の晚餐」の鑑賞そして「ミラノファッションの街」をブラブラ歩く事を楽しみに「ミラノ風来坊 walk」をスタートした。



今真っ盛り アカシヤの花

2004.5.11.

プラタナスの実 街ではポプラの綿毛のように空を舞っている



◆ コペンハーゲンからスイス アルプスを越えて イタリア ミラノへ



◆ ミラノ ガルバルディ駅とその界隈 ホテル エグゼクティブ



Duomo ドゥオーモ 2004.5.11.

14 世紀後半に着工、16 世紀に完成したイタリアの代表的ゴシック建築。ゴシック建築としては世界一の大きさ。高さ 148m、幅は 91m。街の中心 狭い広場にあり、大きすぎて写真に収まらず。 内部のステンドグラスの多さと素晴らしさにただ唖然でした。



壁の上部から射す一筋の光が月日と時間を知らせてくれる



◆ サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会 と レオナルド・ダビンチ「最後の晚餐」 2004.5.11.



修復され甦ったレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」が教会付属修道院の空調の施された旧食堂の壁にありました。

15 分間隔で約 30 人ずつ入場して鑑賞。

イエスが「この中に私を裏切った者がいる」と弟子たちに告げた一瞬。

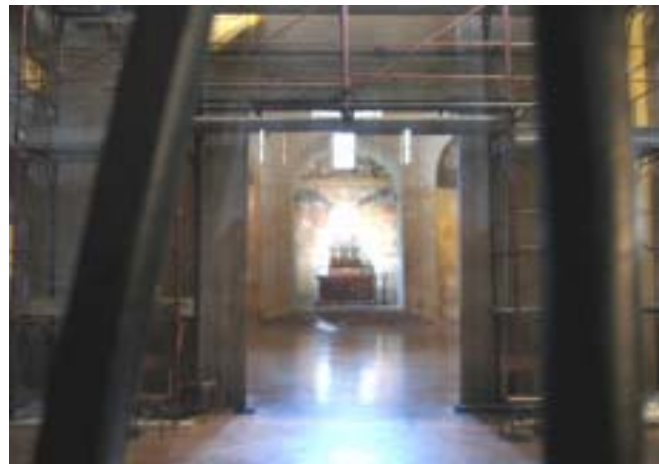
キリストの右のこめかみの所に釘穴が見つかり、正確な立体遠近法で描かれた絵であることがわかったという。また背景に外の景色が描かれ、構図の随所に円や三角形の構図が作られ、全体としてイエスに集中するよう工夫されているという。

(「最後の晩餐」の写真は絵葉書より)



◆ 4 世紀遺構が残る「サンロレンツォ・マジョーレ教会」 2004.5.11.





◆サンテウストルジョ教会 2004.5.11.



◆ ドゥオーモ広場から ヴィクトリオ・エマヌエーレII世のガッレリア ヘ

2004.5.11.





◆ レオナルド・ダビンチの像が建つスカラ広場 2004.5.11. スカラ座は工事中でみられず

◆ ミラノ 市街地 点描



◆ ミラノで一番古い教会 サンタンブロージョ教会 2004.5.11.



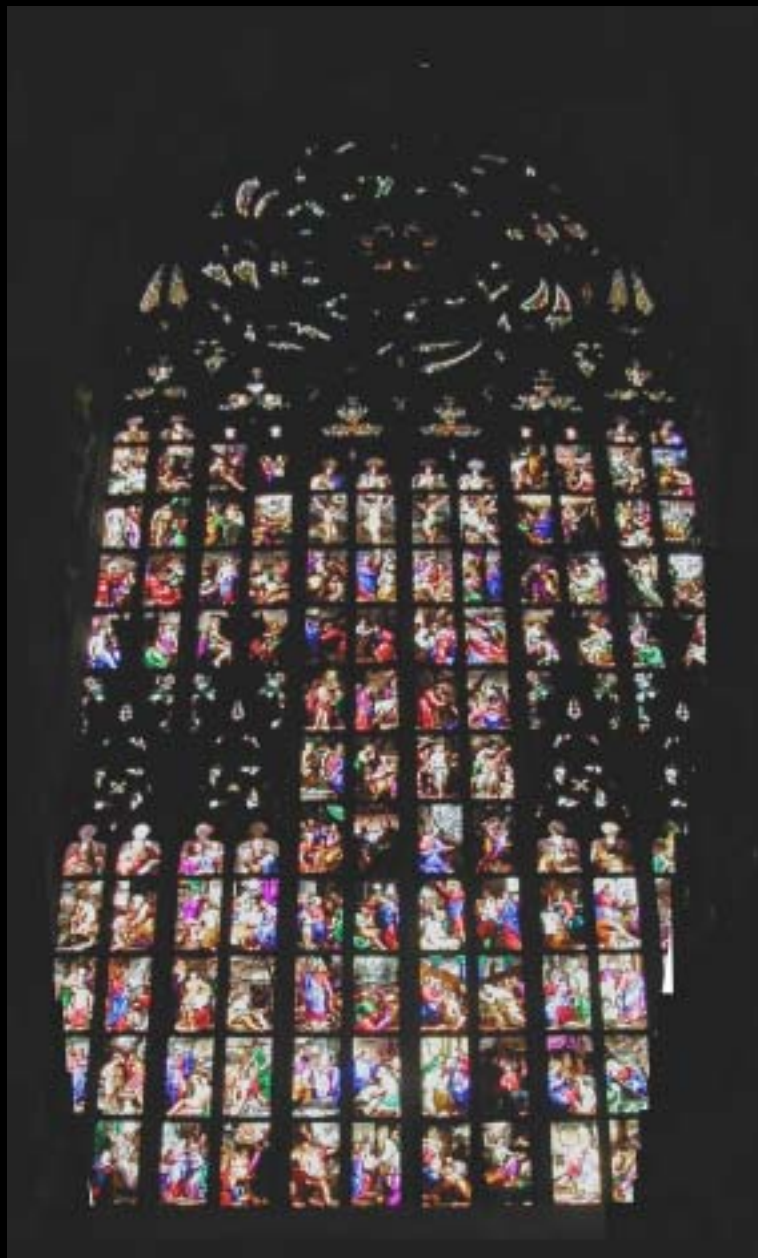


イタリア 第二の大都会「ミラノ」の市街 2004.5.11.

日本・アメリカ流のビジネス街 高層ビルはなし 城壁の中の古い街並と教会・遺跡と共存・調和の中で生活が営まれていた。実に不思議だった。



ミラノ ドゥオーモのステンドグラス 旧約聖書・新約聖書・黙示録の物語 2004.5.11.



ミラノ ドゥオモのステンドグラス 旧約聖書・新約聖書・黙示録の物語 2004.5.11.



ミラノ ドゥオモのステンドグラス

旧約聖書・新約聖書・黙示録の物語

2004.5.11.

VENEZIA ヴェネツィア 2004. 5.12-14.朝



北イタリアのベネト州の州都で、アドリア海の最も奥まった所にある潟(ラグーナ)の上に 117 の小さな島々がモザイク状に集まって形成された水の都。それらの間を約 150 の運河が巡っており、橋の数は 400 に及ぶ。町の中心を逆 S 字形に大運河が貫き、中世からバロック時代にかけての華やかな貴族住宅や各国の商館の並ぶ幹線水路となっている。

潟は、堤防のように延びるリド 島によってアドリア海と隔てられ、ほかにトルチェロ島、ブラノ島、ムラノ島など多くの島が散在する。

町の政治的・経済的中心はサン・マルコ広場周辺。ドゥカーレ(総督宮)、サン・マルコ大聖堂、新・旧行政館、図書館、造幣局などの古い公共的建物が集まっている。

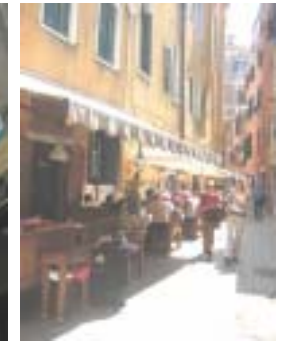
一方、経済の中心は地理的にもこの町のほぼ真中にあたるリアルト Rialto 地区にあり、リアルト橋周辺には市民の台所を支える中央市場などもあり、多くの店・レストランが建ち並ぶ市民の憩いの場として賑わっている。現在ベネチア市は、行政的には本土側に近代発展したメストレ・マルゲーラと一体となっていて人口約 31 万人(島部は約 10 万人)。



5・6 世紀本土の住民が異民族の侵略を恐れてラグーンの島々に住み始めてヴェネツィアが誕生。

8 世紀にはビザンチン帝国の支配下にあったものの都市国家として「ドージェ(総督)」による自治を確立し商業

の中心都市として繁栄。 11 世紀末 十字軍の遠征が始まると地中海諸港に商館を開き勢力を拡大。 13 世紀初めにはコンスタンティノープルを征服。



地中海を通る主要貿易ルートを駆使して、ヨーロッパで最も強力な商業貿易の中心地の1つになると共に地中海の大部分を支配下に入れ、15世紀には東方貿易を独占。「アドリア海の女王」として君臨し、ルネッサンス文化が花開き最も繁栄する。

17世紀にはいと衰退の道をたどり、1797年ヴェネツィアはオーストリアの殖民下となり、その後まもなく

ナポレオン1世によって統治される。そして1866年イタリア王国に併合される。この凋落期に祝祭都市としての様相をつよめる。その中心となる毎年2月のカーニバルなどでは身元を隠す華やかな仮面衣装が主役であった。街にはたくさんの仮面がみやげとして売られている。世界の人が集まるサンマルコ広場に立って沈んでゆくといわれるこの歴史的水上都市をじっくり眺めるのが楽しみである。

ヴェネツィアは水上都市で車は街に入れない。入れても走れない。徒歩と運河を行き来する水上バスが主要交通。

本当に水路と路地しかない水上都市に幾つもの教会や歴史的建造物がひしめき、世界の観光客が押し寄せ、その中で約10万の人たちが、日常の生活を行い、ビジネスがごく普通に・・・。

古い歴史都市の中にビジネスや行政街が埋め込まれ、大学もこの街中の幾つかの建物に分かれ、埋没。しかし、きっちり機能しているという。イタリアの街に対する驚きをここでも感じる。

サンマルコ広場はまさに人種のルツボ。やっぱり素晴らしい。

大運河を水上バスで行ったりきたり、リアトル橋・アカデミア橋・スカルツィ橋と路地の隅々まで街・教会を訪ねて昼の長い一日を夜遅くまで歩きました。誰も居ない路地にふっと立ち止まったり、教会にはいり、価値はわかりませんが聖画などを

眺めていると外の喧騒を忘れ心落ち着くひととき。私の好きなひとときです。



マジョーレ島の静かなマジョーレ教会鐘楼から見るヴェネツィアの全景・スカルツィ橋の街の夕日・ 夕方のゴンドラ運河めぐり
どれもこれも本当に印象的でした。



夜 最終近くの水上バスで運河を行くと水が昼より、30cm 以上上がってきて、水路沿いのあちこちで入口に橋をかけている。現在 地盤沈下は止まっているというが、地球温暖化が心配になる。



また、朝 8 時頃 サントルチア駅周辺を足早に街の中へ次々と消えてゆく集団がある。直ぐ横の教会に入ってから、街中へ消える人達も。明らかに観光客とは異なる集団。朝 本土からやって来て夕方帰ってゆくサラリーマン・学生の集団である。でも 本当にこの街に馴染んでいるというか、雑踏の街中街中に調和して消えてゆく。現代の活動がふっと垣間みえたような気がした。



16 サン・マルコ広場周辺／時計 通り〜リアルト橋



◆ ミラノからヴェネツィアへ 高速道路をバスで 2004.5.12.

ミラノをでると丘陵の続く田園地帯が続く。葡萄とオリーブの林がつづき、この地方はぶどう酒とオリーブの産地である。車窓に次々と街や古城が次々に丘陵地の上に現れる。



どの丘も町で一番高い建物の教会の鐘楼とドームがあり、古くから続いてきた街である事がわかる。こんなに広い平地があるのになぜ丘に??。でも ヨーロッパに憧れてきた素晴らしい田園の風景が広がる。「ロミオとジュリエット」の街「ベローナ」も車窓にみえた。ベニスまで高速道路沿いに大きな工場見えず。農業国イタリアか??



葡萄畑 (1)



葡萄畑 (2)



オリーブの林

◆ 水上都市 ヴェネツィア ヘ 2004.5.12.



ヴェネツィアへは本土から海に一直線に伸びた橋を鉄道も車も渡る。渡り終えた所が終着点。大運河の北のターミナル「サントルチア駅」界限。ここからヴェネツィアの街が始まる。先には道はなく、徒歩か水上バスに乗り換える。



ヴェネツィアの大駐車場

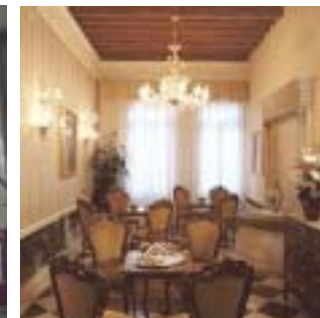
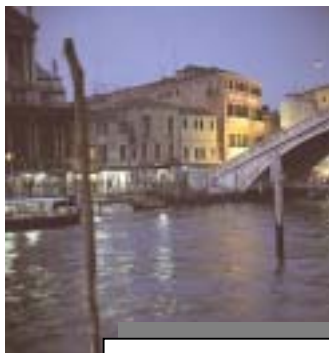


唯一の公共交通 運河を行く水上バス



大運河にかかるスカルツィ橋

◆ サントルチア駅近傍 スカルツィ橋のたもと ホテル「ボスコロ・ベッリーニ」



ホテル「ベッリーニ」はヴェネツィアの街の北の入口 スカルツィ橋のたもと賑わう街路にあるヴェネツィアのシャンデリアが美しい古いホテル。街に入る人はみなサントルチア駅やその横の大駐車場に車を入れ、このスカルツィ橋を水上バス・徒歩で通過して入っていく。

◆ サンマルコ広場界限【1】ドゥカーレ宮殿 & 昼食「イカ墨パスタ」



古い家並が曲がりくねって続く路地が続く街路をキョロキョロしながら街中へ
 昼食は「イカ墨パスタ」
 ガイドのイタリア嬢が「ナポレオンに取られた・取り戻した」の説明がいやに耳に残るサンマルコ広場に隣接したドゥカーレ宮殿

◆ サンマルコ広場 界限【2】サンマルコ広場の賑わい





サンマルコ寺院 正面入口のモザイク画

2004.5.12.

◆ サンマルコ広場 界限【4】 フローリアン 2004.5.13.

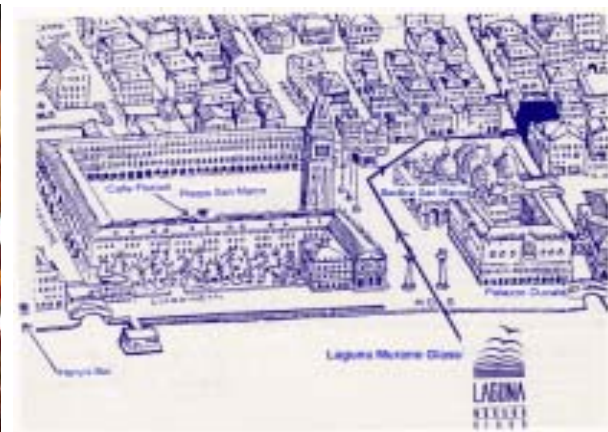


サンマルコの広場にある有名な喫茶「フローリアン」
野外で演奏とサンマルコを訪れる人を見ながら午後のお茶
店の中の方も壁一杯に絵がある重厚な雰囲気。外の演奏が聞
けるよう通路側の扉と窓が開放されている。
コーヒー杯 1500 円は高いですが、話の種。

◆ サンマルコ広場 界限【3】 ヴェネツィアン グラス工房 (ラグーナ ムラノ グラス)



ヴェネツィアングラスの赤
コバルトの青 銅の緑 銀の水色 そして金とセリウム添加ですば
らしい赤が発色する。
赤に魅せられてヴェネツィアングラスのペアグラスを買いました。



◆ セレナーゼを聞きながら ゴンドラ運河めぐり 2004.5.12.夕



◆ スカルツィ橋界隈の朝 2004.5.13.



◆ リアトル橋界限 朝 市場から運河沿い路地をサンマルコ広場へ 2004.5.13.



◆ サルーテ岬の先端にあるサンタ・マリア・デッラ・サルーテ教会

2004.5.13.





◆ アカデミア橋 界 限 2004.5.13.



◆ サン・トマ サンタ・マリア・グローリオザ・デイ・フラーリ教会 ティッツァーノ「聖母被昇天」





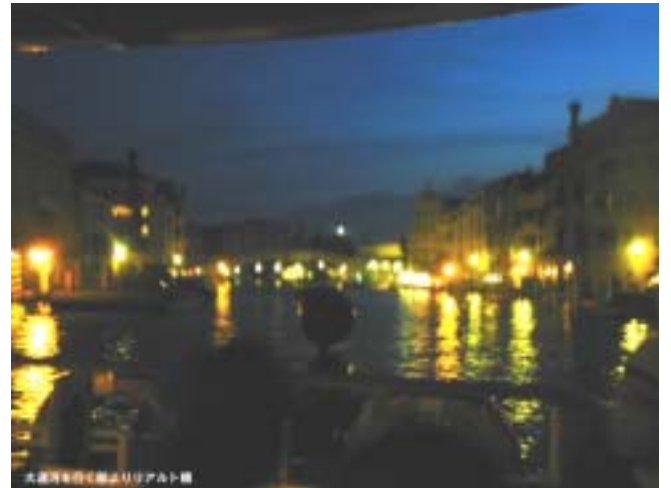
ディツィアーフの傑作「聖母被昇天」



◆ 旧ユダヤ人街 グリエ橋界隈の夕景 2004.5.13. 夕



◆ 夜のリアトル橋界限から大運河をスカルツィ橋へ 2004.5.13. 夜



Firenze フィレンツェ 2004. 5. 14.-16.



花の都フィレンツェ。14 世紀～16 世紀ルネッサンスが誕生した街。

赤茶のレンガの街並みは、歴史がストップした感を受け、旧市街は〈都市博物館〉といわれるほど多くの記念物がある。

イタリアの中央部、トスカーナ州の北部に位置するトスカーナ州の州都。中央を流れ街を2分するアルノ川は、アレツォからこの街に流れ入って、ピサを通り、ティレニア海に流れ込んでいる。また、このフィレンツェから北部へ抜けると、ボローニャを経てラベンナ、ヴェネチアに出る。一方、半島の傾きに沿って北西に向うとジェノバ、ミラノに出る。南に向えば、ローマである。トスカーナ平野の中の盆地に位置しているので内陸部だが、標高は低い。人口は約40万人。

フィレンツェの歴史

紀元前10世紀に古代イタリア人が住み着いたのが始まり。その後、エトルリア人がこの辺りに住み着いたが、その頃はフィエゾレ（フィレンツェ北部の丘の上）が町の中心地で、現在のフィレンツェ辺りはまだ小さな集落であった。古代ローマ人がこの地に植民地を作るに至って都市に成長した。彼等がこの地を「フィオレンツィア・花の都」と呼んだのがこの町の名前の由来らしい。ローマが滅んだ後、次第に都市として発展。



11 世紀の後半には、人口が増加し、町を囲む城壁も築かれた。この頃、サン・ジョヴァンニ洗礼堂、サン・ミニアート教会、サンティ・アポストリ教会等が建てられている。

そして、12 世紀初頭、自由都市が成立するとローマとミラノの街道を生かした商業都市として銀行業を中心に益々発展する。



諸国への貸付などの金融業で勢力を伸ばし、政治や外交にも才のある商人が、都市の主役となっていった。

15 世紀になるとその中から銀行業で巨万の富みを築いたメディチ家がフィレンツェを支配。以来 300 年フィレンツェの政治的支配者となったメディチ家は、多くの当主が芸術を愛し、芸術家の保護と支援に財を惜しまず、「ルネッサンス」の花をこの街で咲かせる。「メディチ家」の援助なしには、ミケランジェロもラファエロも才能を開花させることはできなかった。

世界の 2 大巨匠ミケランジェロ・ブオナッロティとレオナルド・ダ・ヴィンチを生んだ街でもある。

15 世紀半ばにコシモ・デ・メディチ（コシモ・イル・ヴェッキオ）のとき隆盛をむかえロレンツォ・デ・メディチ（ロレンツォ・イル・マニフィコ）のとき頂点を極め、1492 年のロレンツォの死後、一時、メディチ家はフィレンツェを追われるが、ロレンツォの弟（ジュリアーノ）の息子がクレメンテ 7 世として教皇位に付くと神聖ローマ帝国皇帝カール 5 世の援助を受け、再びフィレンツェにメディチ家を王とするトスカーナ大公国が誕生する。

1737 年、メディチ家が断絶。1801 年にはナポレオンがフィレンツェの統治者となり 1807 年フランスに併合されるが、1815 年ナポレオンの没落後、トスカーナ大公国が再興され、さらにイタリア王国に併合されてゆく。フィレンツェに花咲いたルネッサンスの歴史は、「メディチ家」をなくしては語れない。

ウフィッツィ美術館にはレオナルド、アカデミア美術館やメディチ家廟にはミケランジェロの作品がある。そしてルネッサンスの最高傑作として今も称えられるボッティチェリの「ビーナスの誕生」と「春」もこのフィレンツェが生み、フィレンツェにある（ウフィッツィ美術館）。

また、歴史を美しく残すだけでなく、イタリアンフェラガモやグッチの本店のある現代ファッションの中心地でもある。



ユーロ特急が山間の緑の中を駆け抜けると周りの緑の山々に包まれた赤茶の家々が無数に散らばり、その中央に尖塔が見える。
真っ青の空と緑の山々そしてその下に広がる街。掛け値なしに美しい。 家々がこんなに美しく見えたのは始めてである。 「花の都・フィレンツェ」である。





◆ ユーロ特急でトスカーナ高原 花の都・フィレンツェへ ヴェニス・サンタルチア駅 2004.5.14.



PARTENZE

Destinazione	Int. 1991	Int. 1991	Int. 1991	Int. 1991
UDINE-TRIESTE	10	9.55	3	
TRIESTE	100	10.10	1	
PADOVA	100	10.10	19	
BASSANO	100	10.17	18	
TREVISO	100	10.17	13	
MILANO	100	10.22	7	
ADRIA	100	10.26	23	
ROMA T.NI	100	10.32	6	
PADOVA	100	10.37	19	
MILANO	100	10.51	10	
BOLOGNA	100	10.58	9	
BASSANO	100	11.12	20	

9 56

← ユーロ特急ローマ行



◆ ユーロ特急車窓より 糸杉・葡萄・オリーブ・赤いケシの風景から高原の風景へ ボローニアを過ぎるとトスカーナの風景が広がる



◆ シニョリーア広場

2004.5.14.

市庁舎・ベッキオ宮のあるフィレンツェ市政の中心 すぐそばにウフィッツィ美術館
「ダビデ」像 ネットゥーノの噴水 コジモー世の騎馬像ほか数々の像が建つ





コジモー世の騎馬像



白い巨人 ネットゥーノ



ミケランジェロ作「ダビデ」



ヘラクレスとカクス



市庁舎のロビーに立並ぶ彫像

2004.5.14.



サビーネの女の略奪



ペルセウス

◆ ウフィッツ美術館 ルネッサンス絵画の宝庫 2004.5.14.



ボッティチェリ「春」「ヴィーナス誕生」 カタログより



写真は取れませんでした、名画の数々。まわりきれぬ。
500 を越える花をボッティチェリが書き込んだ「春」には感動しました



ウフィッツ美術館2階回廊より見るアルノ川左岸・ヴェッキオ橋

◆ シリョニーア広場からドウオモ 花の聖母教会へ 2004.5.14.





フィレンツェ、ドゥオモ、鐘楼塔



サン・ジョヴァンニ洗礼堂
フィレンツェ、ドゥオモ、鐘楼塔



2003.11



サン・ジョヴァンニ洗礼堂「天国の扉」







◆ フィレンツェの 旧市街 路 地

ドーモを見学した後 快晴の日差し
の暑い午後、みんなでアイスクリー
ムを食べに。
フィレンツェの路地を歩きました。

2004.5.14. 午後

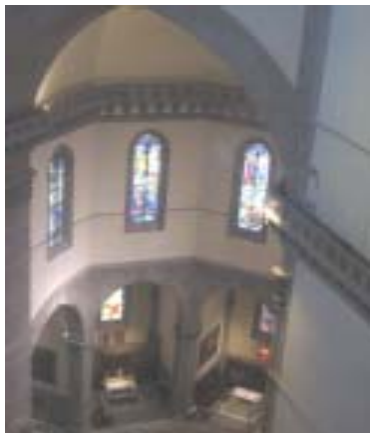
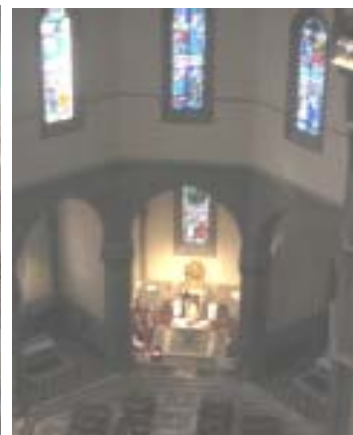
◆ 夜のフィレンツェの町へ 夕食後 ドゥオモ・シニョリーア広場からヴェッキオ橋へ 2004.5.14.





◆ ドゥオモの鐘楼に登って 花の都フィエレンツェの眺望

2004.5.15.





クーポラ天井を飾るバザーリらが手がけたフレスコ画「最後の審判」



キュポラの上より 2004.5.15.



キュポラの上より 2004.5.15.



キュポラの上より 2004.5.15.



花の聖母教会 キュポラの上より 2004.5.15.

◆ ガリレオやミケランジェロの墓のあるサンタ・クロチエ教会とパッツイ家礼拝堂

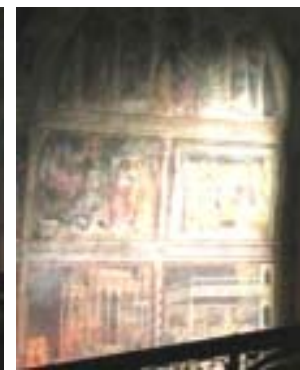
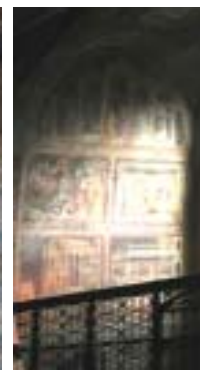


ガリレオ・ガリレイの墓



ミケランジェロの墓







サンタ・クローチェ教会
(聖十字架教会) 2004.5.15



◆ アルノ川に沿って 2004.5.15.





両替屋



◆シニョリーア広場
 界限を歩いて
 両替屋に行って
 みやげを探して
 結婚式??の馬車もでて
 2004.5.15.



◆ セント・ローレンツ教会 & メディチ家礼拝堂





◆ メディチ家礼拝堂周辺のバザール 2004.5.15.



◆ アルノ川の対岸 「ミケランジェロ広場」から 花の都 フィレンツェ眺望 2004.5.16.朝









ミケランジェロ「ダビデ」像



◆ ピサの斜塔 半日ツアー フィレンツェから西へ約 1.5Hr 山を下り海岸へ出たところが城郭都市ピサ

2004.5.15.

途中「ピノキオの村」やダビンチの生まれた「ピンチ村」を通りました。ピノキオの土産が多いのも納得







聖堂には金装飾の高い天井から「ガリレオのランプ」が今も吊られている



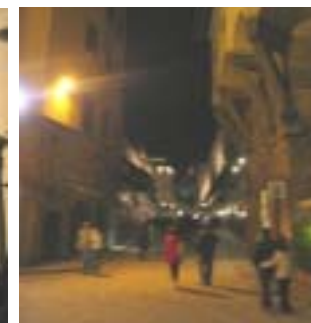
教会の響き 大きなキュポラの先端に向っての声が入るドームの中に幾重もの残響の素晴らしいハーモニーとなって、教会内に響き渡る。
教会のドームにこんな働きがあったとは・・・ また、この声はドームの先端から天上へ抜けてゆく。素晴らしい教会建築の仕掛けである。



みんないろんなポーズで斜塔を支えて・・・ぼくもトライ



◆ ビサから帰って、ツアーの人と一緒に食事をして、フィレンツェ最後の晩 ベッキオ橋界隈の街を楽しみました。 2004.5.15.夜



アッシジ Assisi 聖サンフランシスコ・聖キアラを訪ねて 2004.5.16.

アッシジは「緑の大地」と喚ばれるウンブリア州のほぼ中央、州都ペルージャに隣接する小さな山上都市で、古くから開かれた街で、街の中心部にはローマ時代のミネルヴァ神殿が残っている。

フィレンツェとローマのほぼ中間にあり、フィレンツェからは 列車なら 3 時間前後、バスなら 2 時間 40 分くらい。ローマからは 列車なら 2 時間半前後、バスなら 3 時間くらい。

イタリアの守護聖人、聖フランチェスコは 1182 年にこの街に生まれ、死後 ローマ教皇によって聖人に列せられた。

アッシジの北西の城壁にそそり立つ巨大なサン・フランチェスコ聖堂の壁面には『清貧』『純潔』『従順』を戒律として、ただ祈る事を教えとしたサン・フランチェスコの生涯がジョットを始めとするル

ネッサンスの画家達の手で描かれている。

サン・フランチェスコ寺院はフランシスコ派カトリックの総本山として 13 世紀から 14

世紀にかけて絶大なる勢力を保ち、奇跡を求めて多額の寄進が集まり、城塞にも似た大建造物や数々の教会や修道院が建立された。

13, 14 世紀隆盛を極めたアッシジの町はその後、すぐ近くのペルージャなどと争いを続け町は次第に荒廃していった。そして、この山上都市には中世そのままの街が教会と共に今日まで残った。

人口：24,626 人



アッシジの歴史 聖フランシスコとキアラ



ローマの昔に山腹の階段状の台地に町が築かれたのがこの町の起原らしい。その後ローマが倒れ、この地にも蛮族が襲来し、6世紀終わりにはロンバルト族の支配を受ける。8世紀後半にカール大帝がこの地を征服し、一帯を教会に寄進したため教皇領となり、その後12世紀終わり頃まで神聖ローマ帝国の支配下に入る。

アッシジの都市は、12世紀から13世紀にかけて城壁が新しく築かれ、市街は拡大。

13世紀の初め、神聖ローマ帝国が衰えたのを機に自治都市として独立する。

アッシジの聖人フランチェスコが産まれのもこの頃。

彼は、初め騎士だったがある日不思議な夢に導かれて神に仕えるようになる。1209年に彼の修道士会がローマに認可されるとフランチェスコ修道会はアッシジとその周辺で清貧と人類不変の友愛を説いた。

1226年彼が息を引き取ると、1228年に聖人に列せられ現在のフランチェスコ聖堂が造られ彼の遺体もそこに安置されることとなった。

そして、フランシスコ派カトリックの総本山として13世紀から14世紀にかけて絶大な

勢力を保ち、奇跡を求めて多額の寄進が集まり、城塞にも似た大建造物や数々の教会や修道院が建立された。また、アッシジのもうひとりの聖人キアラはアッシジの貴族の子として生まれ、善良で信心深い母オルトラーナの下で育ち、18歳の時、聖フランシスコと出会い、その後、言行一致のフランシスコの指導を受けて修道女になり、まもなく妹のアグネスも修道女になった。その後、修道院長となってもキアラは祭服や典礼用の亜麻布を織り、美しい刺繍をつけてウンブリア地方の貧しい教会に送ったり、みずから食事・給仕・洗濯などを行い続け、若い修道女には優しい母の様であったという。病弱で、病苦に耐えながらサン・ダミアノ修道院で師父フランシスコの精神を良く体得し、修道女たちの良い手本となった。遺骸はアッシジのサンタ・キアラ聖堂にあり、死後、聖人に列せられた。20世紀に入って、フランチェスコ没後700年の巡礼が行われ、1939年に彼がイタリアの守護聖人になったのをきっかけに、現在のようにぎわいを取り戻した。



聖フランシスコの生涯



フランシスコは1182年×1)、イタリアはアッシジの富裕な織物商の息子として生まれた。(1181年、日本では、平清盛が64歳で没した。その少し前、1221年には承久の乱が起こり、幕府が後鳥羽上皇を隠岐に、順徳上皇を佐渡に、そして土御門上皇を土佐に移した。)フランシスコは身分相応の高い教育を受けたが、生まれつき陽気な性質で習い覚えた歌物語を盛り場で歌ったり、踊ったり、宴会や音楽会に浮かれ回ったりして、金を湯水のように使う生活をしてきた。その反面愛情も深く、慈悲に富み、貧者を見れば気前よく金品を恵んでいた。ある日のこと、ひとりの物乞いを何も与えずに外に追い出してしまった。しかし直ちに後悔した。「もしあの男が私の友だちからよこされて来たのだったら、あるいはある伯爵とか男爵からの紹介で来たのだったら、私は喜んで求めるものを与えたことだろう。しかし、今の自分の態度はどうか。彼は王の王、万物の創造主である神から遣わされて来た人なのだ。私は空手で彼を追い返してしまった。その上、失礼な言葉まで言ったのだ」。そして、すぐさま立ち上がりて彼を追いかけ、お詫びを言って莫大な施しをした。

19歳の時にアッシジ軍に加わり、ベルギアと戦い、破れ、1年間、捕虜生活を送った。その後、南イタリアで起こった戦争に志願した。しかし途中の町で病気に罹り、ひとり残されてしまった。その病床で夢うつつのうちに「フランシスコ、どこへ行こうとしているのか」という声を聞いた。フランシスコが「騎士となってアブリアへ行こうとしています」と答えると、み声は再び「フランシスコ、あなたに最も多くの恵みを与えることのできるのは、主人か、召使いか」と尋ねられた。フランシスコは声の主がキリストであることを認めて、「主よ、私に何をさせようと思召しなのですか」と尋ねた。すると主は、「フランシスコ、家に帰りなさい。そこであなたのすることは知らされます」と。彼は、来た道を、目を見張るような騎士姿の彼が駿馬にまたがり、引き返した。人々の軽蔑の目を気にせず、教会や町はずれにあるほら穴で祈り、新しい指示を願った。

フランシスコが、半ばこわれかかった聖ダミアノ聖堂で祈っているとき、十字架から声が聞こえてきた。「フランシスコ、早く行って私の家を修繕しなさい」と。彼は早速修理にとりかかった。父は息子の変わり方に驚き、もとの華々しい生活にも戻るようにしつこく勧めたが、何の甲斐もなかった。父は息子を司祭館に連れて行き、公に勘当した。

1209年2月、アッシジの近郊にあるボルチュンクラの聖堂で、福音の一節(マタイ 10・10)「金銀や銅貨を帯に入れてはならない。旅袋も二枚の上着も、くつも、杖も持ってはならない。働く人は食糧を貰う権利がある」を聞いて感動し、さっそく身に褐色の粗服をまとい、腰に荒縄を締め、はだして説教して回った。

その後はボルチュンクラ聖堂を根拠地として、福音のみことばを伝えて回った。そして、太陽、月、星、風、空気、雲、空、天候、水、火、大地、人、死、すなわち総ての被造物が兄弟であり、姉妹であったが、特に人間は愛すべき兄弟であった。たとえ盗人であっても、また迫害者であっても、フランシスコは愛すべき兄弟として接した。それで、フランシスコには目に見える敵はいなかった、ただ、人間の心にひそむ悪が彼の唯一の敵であった。主なるキリストを十字架にかけたのも、心にひそむ悪であり、また平和をかき乱すのもこの悪に他ならない。フランシスコは人びとの心を築くう敵を討ち取るために、最後の息を引き取るまで戦った。

神との深い交わりからわき出るフランシスコの説教は強く人びとの心をとらえた。その慈悲深い説教には無心の小鳥、魚、羊、狼さえおとなしく聞き従ったという。

1224年、40日の断食と黙想をするためにアルベルナ山に登り、キリストに最後の願いをした。「おお、イエズスよ、死ぬ前に私に二つのお恵みをお与え下さい。すなわち、私の霊魂と肉体にあなたのご受難の苦しみをできるだけ強く感じさせて下さい。それから人類のあがないのために、あのようなひどいご受難を厭わなかったあなたのすぐれた愛をできるだけ深く私の心に感じさせてください」と。それ以来、フランシスコは眼と胃をわずらった。その激しい苦しみのさ中にも、キリストとの親密な一致によって魂の平和と喜びを体験し、そのしるしとして聖痕を受けた。

フランシスコはフランシスコ会、クララ会、第三会の3つの修道会を創立した。

1226年、10月3日夜、ボルチュンクラ聖堂の側で、詩編141「私は声を出して主に叫ぶ」を唱えながら死を迎えた。44歳。

その死後、多くの奇跡がフランシスコの取り次ぎによって起こり、その聖徳が十分に実証されたので、1228年6月16日付×2)で、教皇グレゴリウス9世×3)によって列聖された。

聖フランシスコの祝日は10月4日。

聖キアラ



1194年、アッシジの食族、スキフィ伯爵家に生まれた。善良で信心深い母オルトラーナは長年、子のないのを悲しみ、聖地に巡礼してこの恵みを願ったところ、懐胎した。出産も近づいたころ、聖堂の十字架の前で祈っていると「女よ、心配するな、あなたは世界を照らす光の子を安らかに産むであろう」という声を聞いた。間もなく女の子が産まれたので、両親はクラウ（光り輝くもの）と命名した。

クララは敬虔な母の下で信心深く育てられた。家政、裁縫、花の栽培も良くし、宗教のほか音楽、文学、政治、社会問題にも関心を寄せ、学識ある人の話を喜んで聞いた。

18歳の時、彼女は聖フランシスコと出会い、地上の望のはがなく、その美のたのみがたいこと、また純潔を守り通してキリストの浄配になることの如何に尊いかを聞き、言い知れぬ甘美な希望に燃え立った。彼女は言行一致のフランシスコの指導を受けて、1211年、枝の主日に、ポルチュンクラ聖堂で修道女になった。まもなく妹のアグネスも修道女になった。彼女らの父は、娘の出家が祖先一門の名誉を汚すと非常に怒った。クララのもとに身を寄せたアグネスを連れ戻そうとして12名の武装隊を引き連れて修道院に侵入したが、クララが神のご加護を祈るとアグネスの身体は大石のように重くなったので、彼らは神の意志を悟り、アグネスの修道院入りを許した。

1215年、クララは院長になった。みずから食事を整え、給仕し、洗濯をした。若い修道女にたいしては優しい母の横であった。祭服や典礼用の重麻布を織り、美しい刺繍をつけてはこれをウンブリア地方の首しい教会に送った。

クララは1253年8月11日、59歳で亡くなった。彼女は病弱で、42年間のうち27年間は病苦に耐えながらサン・ダミアノ修道院で師父フランシスコの精神を良く体得し、修道女たちの良い手本となった。追憶はアッシジのサンタ・キアラ聖堂にある（キアラはクララのイタリア語）。

1255年、教皇アレキサンデル四世によって列聖された。

聖クララの祝日は8月11日である。

聖クララ会は、聖フランシスコに与えられた神の勸めと、教会によって認可された戒律に従って、厳格な禁域制と完全な無所有を特徴としている。まったく観想と祈りの生活を通して聖三位を賛美し、全世界に神の証となり、神を人びとにもたらし、教会、特に司祭を助ける。

日本には、八王子市、西宮市、桐生市、上越市に修道院がある。各修道院は院長の指導のもとに独立した共同生活を営んでいる。



登半アウ館舎 2004.5.16



アッシジ

2034 5 16

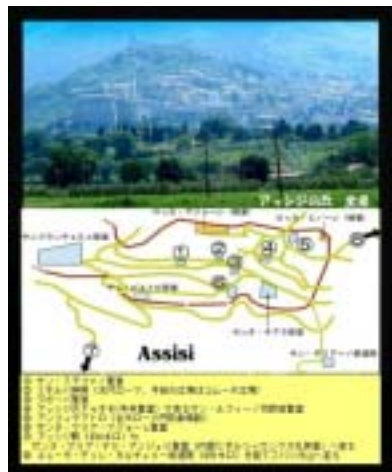
「平和の折り紙」

[illegible]

◆ フィレンツェから中世の宗教都市「アッシジ」へ 2004.5.16. 緑の大地「ウンブリア州」に行く



◆ アッシジの街の入口で 鉄道駅のあるアッシジの下の町 そして聖フランシスコ大聖堂を中心とした山上の城郭都市



◆ ウニタ・ティータリア広場(駐車場) から聖フランシスコ大聖堂下の広場へ



聖フランシスコ大聖堂 2004.5.16.



聖サンフランシスコの生涯

聖サンフランシスコ大聖堂壁画 解説抜粋

聖サンフランシスコ大聖堂 入場観覧資料より

2004.3.16.

Encounter with
Saint Francis in Assisi

聖サンフランシスコの生涯

聖サンフランシスコ大聖堂壁画 解説抜粋

聖サンフランシスコ大聖堂 入場観覧資料より

2004.3.16.

Encounter with
Saint Francis in Assisi

聖サンフランシスコの生涯

聖サンフランシスコ大聖堂壁画 解説抜粋

聖サンフランシスコ大聖堂 入場観覧資料より

2004.3.16.

Encounter with
Saint Francis in Assisi

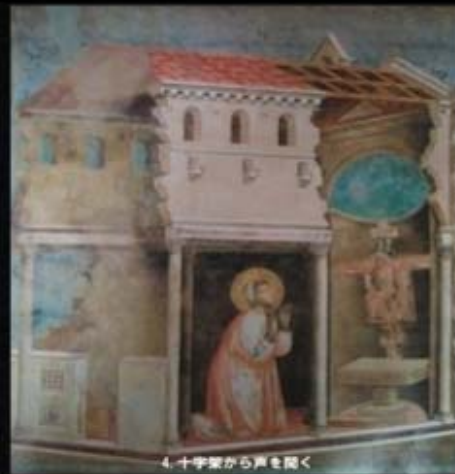
聖サンフランシスコの生涯

聖サンフランシスコ大聖堂壁画 解説抜粋

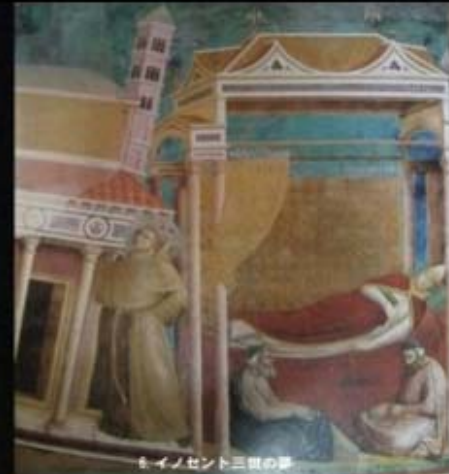
聖サンフランシスコ大聖堂 入場観覧資料より

2004.3.16.

Encounter with
Saint Francis in Assisi



4. 十字架から声を聞く



6. イノセント三世の夢



10. アレッツォの町から悪魔を追い出す



11. イスラム教国王の前での挑戦



サン・フランチェスコの聖堂、上部聖堂内部。壁のフレスコ画は、13世紀の作品で、聖フランチェスコの生涯を描いている。天井は、13世紀のフレスコ画で、聖フランチェスコの生涯を描いている。

[illegible][illegible][illegible][illegible]



◆ コムーネ・市民広場と古代ローマのミネルバ神殿(現在は教会)



◆ キアラ教会とキアラの生まれた馬小屋から聖フランシスコの父母像



聖フランシスコの育った家と父母の像
2004. 5. 16.





アッシジ 聖フランシスコ大聖堂 2004.5.16.



アッシジの街 2004.5.16.





聖フランシスと聖キアラの精神がいつも語られた「海星」に勤めて 是非いつてみたかった「アッシジ」
 「緑の大地」と呼ばれるウンブリア州の中央 その「緑の大地」に包まれた丘陵の上 中世の宗教都市そのままの姿 素晴らしい街でした
 このアッシジ訪問のツアーの中で聖フランシスコ 聖キアラの生涯の物語に出会い、平和を願う良い機会にもなりました。

2004.5.16.



聖フランシスコ 「平和の祈り」

主よ わたしを平和の道具とさせてください
 わたしが
 憎しみのあるところに愛を
 もたらすことができるようにしてください
 罪のあるところにゆるしを
 争いのあるところに一致を
 誤りのあるところに真理を
 疑いのあるところに信仰を
 絶望のあるところに希望を
 闇のあるところに光を
 悲しみのあるところによろこびを

ああ、主よ わたしに
 慰められることよりも 慰めることを
 理解されることよりも 理解することを
 愛されることよりも 愛することを
 望まさせてください



ローマ Roma 2004.5.16.-18.



訪れる者全てを魅了する、永遠の都ローマ。イタリアの首都であり、かつては古代ローマ帝国の首都。またイタリア中部ラツィオ州の州都でもある。

古代・中世・ルネサンス・バロックそして現代が混然一体となって共存

する街、ローマ。

さらにカトリックの総本山バチカン市国を擁する都市として、世界の歴史に多大な影響を与えてきた。古代ローマ時代から遥かなる時を超えて存在し続ける数々の遺跡や建造物。

「ローマは1日にして成らず」の言葉の意味を実感する。

市内は7つの丘を巡る古代ローマの城壁によって、旧市街と新市街に分かれ、城壁の内側、直径約5kmの旧市街では、テベレ川が街を蛇行して流れ、川の東側には主要な名所・旧跡が集中し、西側には独立国のバチカン市国や下町情緒溢れるエリアが広がっている。

私にとっては、約30年前初めて海外出張し、約1週間国際会議に出席の傍ら、街を歩いた思い出がある。

あの街・あの丘・あの店はまだそのまま残っているだろうか・・・

そんな思いでローマの街に入りました。

家内と二人訪ねた30年前のローマの下町 トラスベレー。30年前そこで仲間と夕食を共にしたレストラン そっくりそのまま今も店が続いていました。



『「ローマは一日にしてならず」

そして、そのローマは街全体が昔の歴史をそっくりそのまま残している。親が訪ね感激した旧跡・街のたたずまいがそのまま30年経って、子供が訪ねても変わらない。また、その孫が・・・。

街を訪れたその同じ場所での感動が世代を越えて伝わってゆく。

ローマははじめイタリアの街はそんな街。それがイタリアの旅の楽しさ

』

とツアーリーダーの女性が教えてくれました。



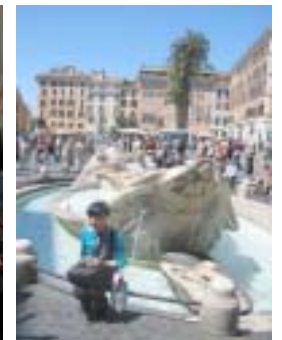
■スペイン広場～コンドッティ通り周辺

ローマを代表するひとつが映画「ローマの休日」で有名スペイン広場。その名は 17 世紀中頃から広場の一角にスペイン大使館が置かれていることに由来する。

広場中央にあるバルカッチャ（舟）の噴水は、バロックを代表する名匠ベルニーニの父、ピエトロ・ベルニーニの作品で、テベレ川の氾濫により川岸周辺に打ち上げられた小舟をヒントに造られたもの。終日大勢の観光客で賑わうスペイン階段は、1723～1726 年にかけてフランチェスコ・デ・サンクティスが手がけた 137 段の幅が広い石段。

その上にはオベリスクがそびえ、2 つの鐘楼が目を引くトリニタ・デイ・モンティ教会がある。

周辺一帯はコンドッティ通りを中心にローマ最大のショッピング・エリア。



■ポポロ広場周辺

ポポロ広場はベネチア広場と共にローマの交通の要衝でコルソ通りやバブイーノ通りなどが交差し、1日中人の流れが絶えることがない。

ポポロとは「人民」という意味。1816～1824年にかけて造られ、ネオ・クラシック様式の広場の東西は、楕円形の壁に囲まれている。

中央にそびえるオベリスクは、アウグストゥス帝時代にエジプトからローマへ運ばれ、法王シクストゥス5世によりこの地に移されたもの。

北側にあるポポロ門は、かつて王侯貴族が馬車でローマを訪れる際の玄関口であった。

ポポロ広場からベネチア広場まで、ローマ市内の中心を南北に貫くコルソ通りは15世紀後半から19世紀末まで競馬が行われていた由緒ある通り。通りの入り口の両側に建つサンタ・マリア・デイ・ミラコリ教会とサンタ・マリア・ディ・モンテサント教会は、よく似た外観から双子の教会と呼ばれている。



■ナボーナ広場周辺



テベレ川とコルソ通りに挟まれた地域の中心に位置するのが、ナボーナ広場。

似顔絵描きやパフォーマンスをする人々、市民や旅行者などが集まり賑わいを見せる。

1世紀末にドミティアヌス帝によって造られた競技場の跡が広場となり、細長い楕円形の形は当時の競技場の形がそのまま残ったもの。ベルニーニらによるバロック様式の3つの噴水が有名。広場中央にある4大河の噴水は、ドナウ、ナイル、ガンジス、ラ・プラタの4つの河川を象徴し、擬人化した彫像が圧倒的な存在感を示している。広場南にムーア人の噴水、北側にはネプチューンの噴水がある。広場の西側に建つ建物はサンタ・アニエーゼ・イン・アゴ

ーネ教会。噴水と周囲の建物が見事に調和している様は、広場全体でバロック様式を表現しているともいわれている。

ナボーナ広場からすぐ近く、ロトンダ広場に面するパンテオンは、古代ローマ時代の卓越した建築技術の粋を、ほぼ完全な形で今日に伝える貴重な建築物。



■トリトーネ通り～トレビの泉周辺

コルソ通り沿いにある首相官邸（キジ宮殿）からバルベリーニ広場まで続くトリトーネ通りはローマで最も交通量の多い通りのひとつ。

スペイン広場へ通じるドゥーエ・マチェッリ通りやシステーナ通りとも交差している。ポーリ通りを抜けるとトレビの泉がある。

バロック様式噴水の傑作といわれ、ポーリ公爵邸の壁面を巧みに利用して凱旋門をかたどり、見事な彫像の数々を配したスケールの大きさ、豊かな水の流れる広々とした泉は圧巻。後向きに立ち、左

肩から泉の中にコインを投げ入れると再びローマへ帰って来られるという言い伝えにならいコインを投げ込む人々の姿はいつの時代も変わらぬ光景。



■バルベリーニ広場～ビットリオ・ベネト通り周辺

ビットリオ・ベネト通り、トリトーネ通りなど主要な通りが交差するバルベリーニ広場。国立バルベリーニ絵画館として知られるバルベリーニ宮殿も近い。

広場の中央には、ベルニーニが17世紀に造ったトリトーネの噴水がある。

バルベリーニ広場からピンチャーナ門までのゆるやかなカーブを描く大通りがビットリオ・ベネト通り。



■テルミニ駅～共和国広場周辺

ローマの玄関口であり、映画「終着駅」の舞台にもなったテルミニ駅。空港と市内とを結ぶ直通列車や、ミラノ、フィレンツェ行きの列車などが発着し、いつも活気に満ちている。

テルミニ駅前の五百人広場の先には、古代ローマ時代の遺跡、ディオクレティアーノ浴場跡があり、ローマ国立博物館収蔵品の一部が展示されている。

いくつかの通りが交差する円形の広場、共和国広場もかつてのディオクレティアーノ浴場の一部で、中央には妖精が水を吹き上げるナイアディの噴水がある。

共和国広場から南西に延びるナツィオナーレ通りの南側にはイタリア3大歌劇場のひとつオペラ座がある。

トリノ通りを南下した先にあるサンタ・マリア・マッジョーレ教会は、サン・ピエトロ大聖堂などと並ぶローマ4大聖堂のひとつで、ローマで最も高いロマネスク様式の鐘楼で知られる。

■バチカン市国～サンタンジェロ城



テベレ川の西側にあるバチカン市国は、ローマ法王が元首の独立国。サン・ピエトロ大聖堂やバチカン美術館などが集まる。

バスのターミナルがあるリソルジメント広場からマルゲリータ橋まで続くコーラ・ディ・リエンツォ通りはレストラン、食料品店などが集まり、市民の生活が垣間見られる。

バチカン市国からコンチリアツィオーネ通りを進んだ先に建つのが、サンタンジェロ城。

城の名は聖天使（Sant'Angelo）に由来し、590年にペストが大流行した際、城の上に天使が現れ剣で疫病を打ち払い街を救ったことを、法王グレゴリウス1世が称えたことから名付けられたといわれる。



サンタンジェロ城からテベレ川に架かるサンタンジェロ橋はローマ屈指の美しい橋で、ベルニーニによる10人の天使の立像と円形の城とが絶妙な調和を見せている。

■ベネチア広場～フォロ・ロマーノ周辺

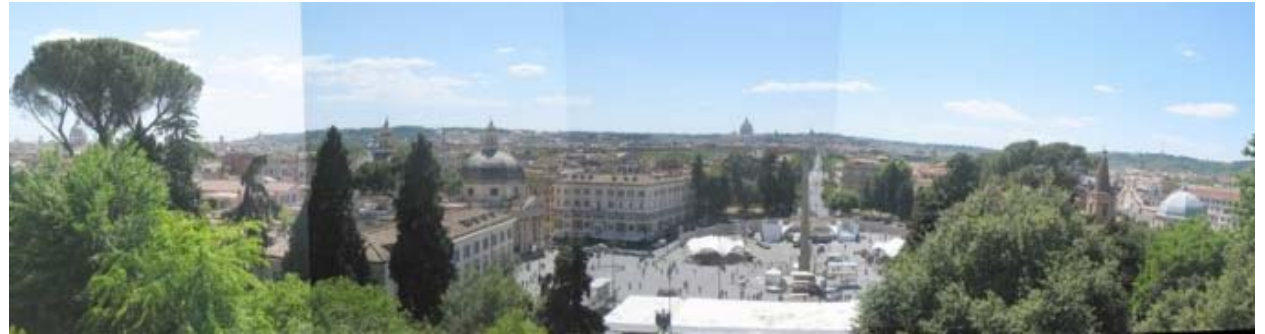
ベネチア広場はコロソ通りなど主要な通りが交差する市内交通の中心地。広場の前に建つ白亜の建物は、ビットリオ・エマヌエーレ2世記念堂（ビットリアーノ）。広場の西側には、バルコニーからムッソリーニが演説をしたことで有名なベネチア宮殿がある。南側一帯はカンピドリーオの丘、マルチェッロ劇場跡、フォロ・ロマーノ、パラティーノの丘やコロッセオ、ベスタの神殿などが集まる古代ローマ遺跡の宝庫。また、映画「ローマの休日」でおなじみの真実の口の石盤で知られるサンタ・マリア・イン・コスメディン教会も見逃せない。





■ボルゲーゼ公園

ローマ市民の憩いの場、緑溢れる広大な公園。17 世紀にシピオーネ・ボルゲーゼ枢機 卿により造られた。ベネト通りに面する側には、古代ローマの城壁の入り口、ピンチャーナ門がある。広大な園内には、ボルゲーゼ美術館や国立近代美術館、ビラ・ジュリア国立エトルリア美術館などの文化施設や動物園などが点在。ポポロ広場近くにあるピンチョの丘の展望台からは、サン・ピエトロ大聖堂を始め市内が一望でき、壮観。



■トラステベレ

テベレ川の西側、下町の雰囲気が漂うエリア。入り組んだ細い石畳の道と古い家並みが残り、ダイニング・エリアとしても人気がある。

トラステベレの中心に位置するのがサンタ・マリア・イン・トラステベレ教会。建物上部を飾るモザイクは 12 世紀の作品。



◆ ローマに着いた夜 印象に残っている「夜のポポロ広場」を訪ねコルソ大通りを walk 2004.5.16.



夜のポポロ広場 2004. 5. 16.

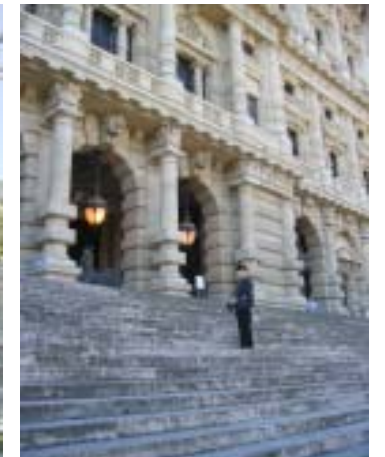


ローマ到着 ポポロ広場からコルソ大通りを始める 2004. 5. 16. 夜



夜のスペイン広場 2004. 5. 16. 夜

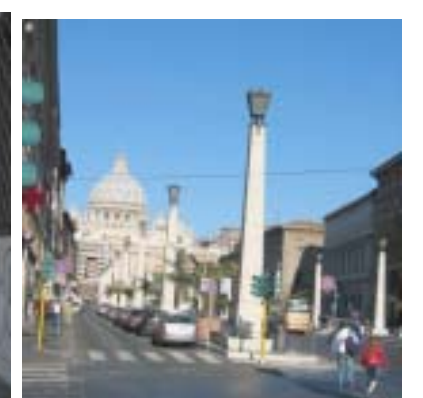
◆ ホテル近傍 テルベ川 西地区で 早朝 Walk 裁判所界隈から テヴェレ川 西岸へ 2004.5.17.朝



◆ サンタンジェロ城 と 彫像が美しいサンタンジェロ橋 2004.5.17. 朝



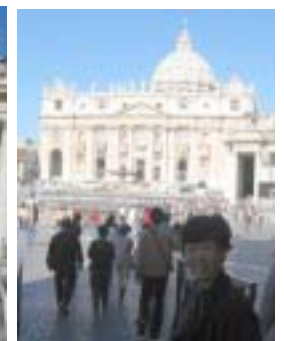
◆ サンピエトロ寺院界隈の街で 2004.5.17.

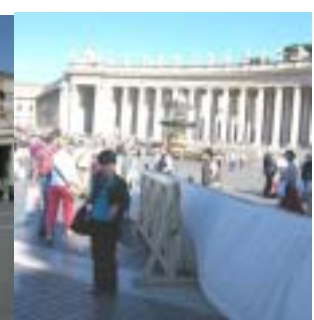


◆ サンピエトロ寺院 2004.5.17.



サンピエトロ広場 2004.5.17.





◆ サンピエトロ寺院内部

ベルニーニ作の天蓋と主祭壇 & ミケランジェロ作「ピエタ」





聖セバスチアンの殉教

◆ サンピエトロ寺院 内部 多くのモザイク画とペテロの像



聖ジェロームの聖餐



The Holy Heart の祭壇



ベルニーニ作
アレキサンダー7世の墓



聖ペテロ像





サンピエトロ寺院の中にある
聖ペテロのブロンズ像



ミケランジェロ作
ピエタ像



サンピエトロ寺院正面に立つ
天国の鍵を持つ聖ペテロ像

ピエタ

十字架にかかった息子キリストを悲しみの中で抱くマリア像 天才ミケランジェロが自分の感性を最大に生かした傑作
母と子の大きさのバランス ミケランジェロが自分のイメージしたままを像にした独特の技法で作られたこの像が多くの人をひきつけるゆえんである。

聖ペテロ

ペテロは殉教の時 キリストと同じ格好で十字架にかかることを恐れ多い事とし、自ら望んで逆さに張り付けてもらったといわれている。

また、ペテロの像がいつも鍵を持っているのは、キリストから「天国の鍵」を授けられたという聖書の記述によるもの

「なんじはペテロ(岩)なり、われ、この岩の上にわが教会を建てん。黄泉の力もそれに打ち勝つことはなし。われ、なんじに天国の鍵を授けん。

なんじ地上でつなぐ事、天においてもつなぐれ、なんじ地上で解くこと、天においても解かれるであろう」(マタイによる福音書 16 章 18-19 節)

◆ パンテオンからコロナ広場へ 2004.5.17.

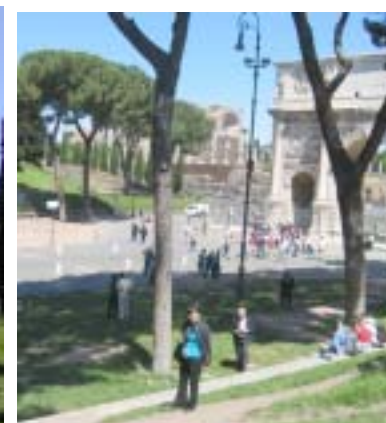
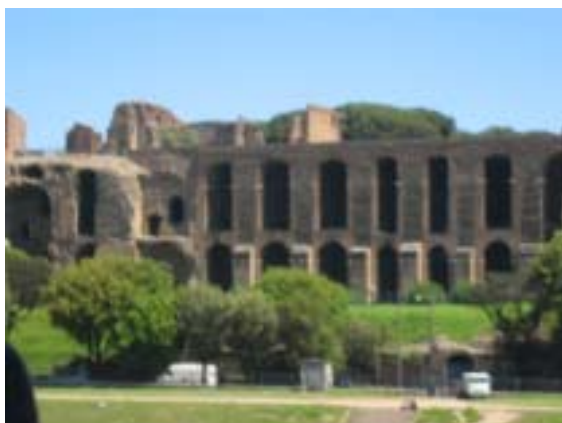
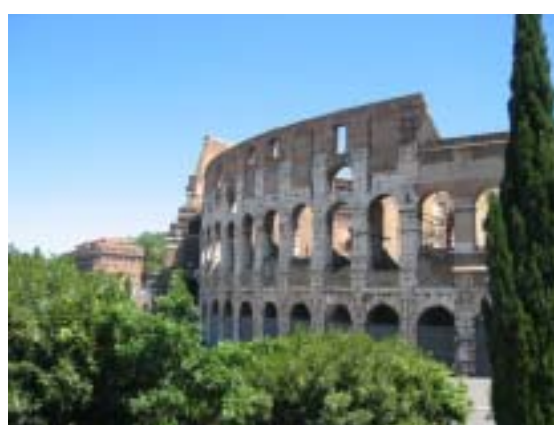


◆ トレヴィの泉 2004.5.17.



◆ フォロ・ロマーノ 凱旋門 コロッセオ 真実の口

2004.5.17.



◆ オペラ座からクイリナーレの丘・大統領官邸・クイリナーレ宮 2004.5.17.



◆ スペイン広場界隈【1】

スペイン広場

2004.5.17.



◆ スペイン広場界隈【2】 カフェ グレコ



◆ スペイン広場の上の丘 ここからローマの展望台 ピンチョの丘・ポポロ広場へと丘の上の道が続く



◆ ポポロ広場の上 ピンチョの丘より、ローマ市街展望 2004.5.17.



ポポロ広場より ローマの街 眺望 2004. 5. 17.





2004.5.17.

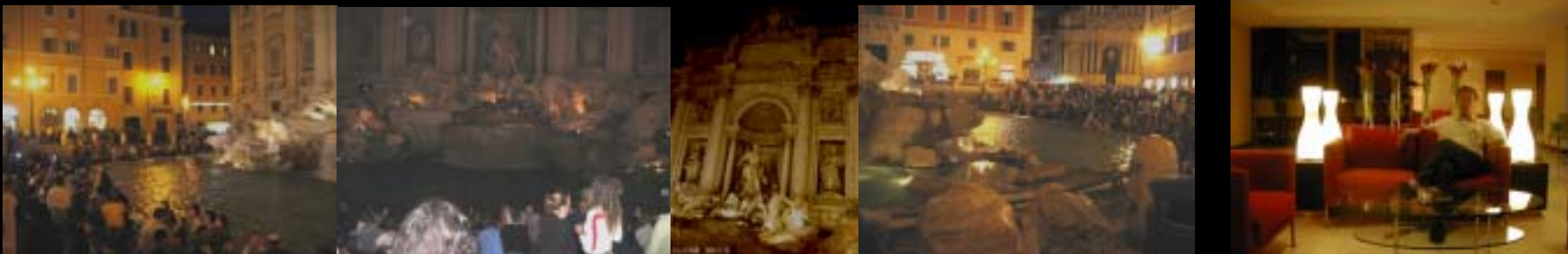
ポポロ広場の上の丘よりローマの街を眺望

◆ テヴェレ川の西側 トラステヴェレの街に約 30 年前に出かけたレストランを訪ねる



◆ 2004.5.18.夜 ローマ最後の夜 もう一度 ローマの街にでて楽しむ

共和国広場からベネチア広場・トレヴィの泉へ



◆ カプリ島ツアー 2004.5.18.



ローマからハイウェイを南へ約 2.5 時間 ベスビオ火山がみえだすとナポリ ナポリの港からカプリへ

◆ ナポリ湾を突き切って カプリへ 2004.5.18.



◆ 青の洞門見学

狭い入口を這って中にはいると素晴らしい青に光輝く海の洞窟が広がるという。 まあ、日本人向けの名所と思う。
でも、予想通りというか 洞門の中に入れず。まあ、観光資源としての商魂のたくましさに脱帽です。



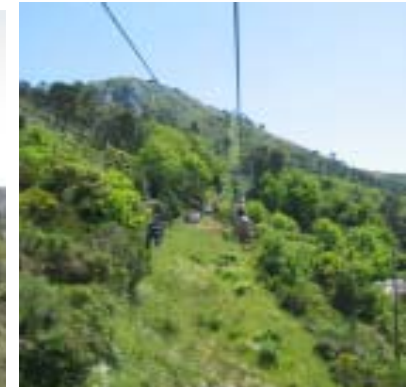


◆ 港 マリナグランデ から ケーブル & リフトで 山の中腹 カプリの街へ

2004.5.18.



◆ カプリの最高峰 ソラーロ山へ カプリの街から小さなバスでアナカプリの街へ そこからリフトで 15 分間の空中散歩





ソラーロ山リフト 空中散歩 2004.5.18.

ソラーロ山リフト 空中散歩 2004.5.18.



◆ ソラーロ山からカプリ 360 度の展望 2004.5.18.

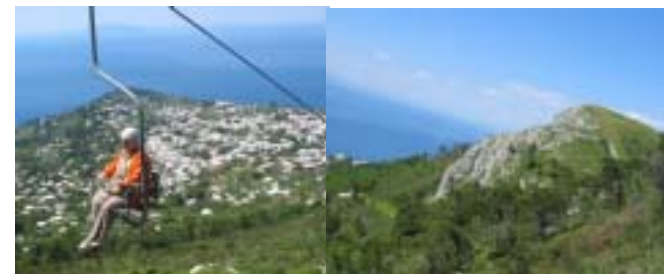






◆ 再度 リフトでラリーロ山を下る

空 中 散 歩



◆ 「海の青」「レモン」の島 カプリ



空中散歩 眼下にはコンペキの海そして島の緑と白い家。緑の中にレモンの畑が山肌に広がり、黄色い果実をつけていました。カプリ島は石灰岩の白い島 コンペキの海はサンゴと石灰岩が広がるこの海では微生物が育たず、透明度が維持されているからだという。島に降り立っても、海岸独特のあの磯の香りがしないのも其の精だという。

また、カプリの特産はレモン。山肌にへばりつくようにレモンやオレンジそして花の畑が広がっている。

このレモンの皮をアルコールに漬け込んで作る強いレモンリキュール「レモンチェッロ」。

少し甘いが30度を越す強い酒。食後酒として冷やして飲む。

口当たりのよさについつい試飲を重ねて 土産に買いました。



アナカプリ view point より 2004.5.18.



◆ カプリ島より、ベスビオス火山・ナポリ方面を眺望 アナカプリ展望台より



◆ カプリの港より ジェット船でナポリへ



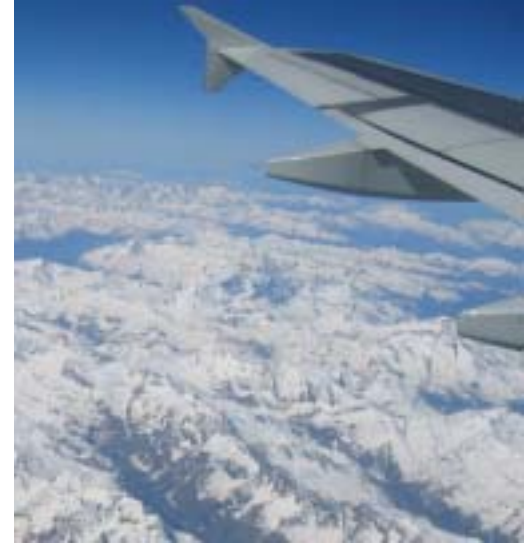
◆ ナポリからローマへ 帰路高速道路の車窓より 2004.5.18.夕





◆ 帰国へ
ローマからアムスヘ
アルプス越え
2004.5.19





◆ 約 30 年前の 1976.11.8.-11.14. 国際会議出席の為初の海外出張の地ローマ

約 30 年前のローマの街と今 本当に変わっていませんね。イタリアの旧市街は昔が今に息づいている。そんな懐かしさがいたる所にありました。



2. イタリア ルネッサンスの巨人の足跡 (概要 PDF file)

● 巨人の足跡

22.	ルネッサンス 巨人の足跡	フィレンツェで薙いあった巨人たち	レオナルド・ダ・ビンチ ミケランジェロ ラファエロ ガリレオ・ガリレイ
2.1	レオナルド・ダ・ビンチ	天才画聖・多能科学者 実証近代科の 天才先駆者	受胎告知 最後の晩餐 モナリザ
2.2	ミケランジェロ	天才芸術家(画家・彫刻家・建築家)	ダビデ像 ピエタ像 最後の審判
2.3	ラファエロ	聖母画家 西洋絵画の基準	ヒワの聖母 レオ10世
2.4	ガリレオ・ガリレイ	近代科学の父	地動説・振り子の等時性・ピサ斜塔の 落下実験

● イタリアの街角で巨人を訪ねて

[レオナルドダビンチ「最後の晩餐」鑑賞を訪ねて ミラノ](#)

[天才芸術家・科学者 ミケランジェロの作品をフィレンツェ・バチカンの街を訪ねて](#)

[聖母画家 ラファエロ「ヒワの聖母」をフィレンツェ ウヒッツイ美術館を訪ねて](#)

[近代科学の父 ガリレオ・ガリレイをピサの街を訪ねて](#)

項目をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

ルネッサンス フィレンツェで競い合った巨匠たち

イタリアの古き街を訪ねて Walk エンジョイ イタリア 2004.5.10. - 5.20.

ー ルネッサンスの大巨匠 レオナルド・ダ・ヴィンチ ・ ミケランジェロ ・ ラファエロ そして ガリレオ・ガリレイ ー



冷徹な知性を持つ画聖 レオナルド・ダ・ヴィンチ



聖母画家 ラファエロ



天才 ミケランジェロ



ガリレオ・ガリレイ



「モナリザ」



「最後の晩餐」



「ヒワの聖母」



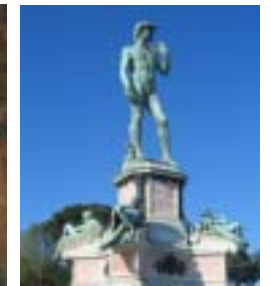
「レオ 10 世」



「最後の審判」



「ピエタ」



「ダビデ」

ルネッサンスの巨人たち ルネッサンス が 花開いた都 フィレンツェ



ルネッサンス期の最高傑作といわれる ホッチェチェリの「春」と「ビーナス誕生」

12 世紀初頭、自由都市となったフィレンツェではローマとミラノを結ぶ街道を生かした商業都市として急速に発展し、諸国への貸付など金融業で力をつけた承認が政治や外交にも才を発揮して都市の主役となった。15 世紀になると銀行業で巨万の富みを築いたメディチ家がフィレンツェを支配。

以来 300 年フィレンツェの政治的支配者となったメディチ家は、多くの当主が芸術を愛し、芸術家の保護と支援に財を惜しまず、「ルネッサンス」の花をこの街で咲かせる。特に、1469 年ロレンツォ・デ・メディチが政権に着いた時、メディチ家は隆盛の頂点を極める。

また、ロレンツォは都市国家間の均衡を保つ政策をとり、長い平和の時代を迎え、フィレンツェは益々繁栄するとともに教会の精神支配のもとに戦争に明け暮れた暗黒の中世から脱却し、ルネッサンス文化が花開き、それが各地へと波及伝播してゆく。

ロレンツォは各地から第一級の画家・彫刻家・建築家・学者・詩人などを集め、自由な芸術・学問への取り組みを促した。こんな環境の中で、ルネッサンスの三大巨匠と呼ばれるレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロやラファエロがこの街で育ち、このルネッサンス文化がローマやミラノ・ヴェネチア・ピサなどイタリア各地へそしてヨーロッパへ波及していった。

ルネッサンスとは、14-15 世紀イタリアをはじめとするヨーロッパ世界に興った広範な文化革新の称。

元来（再生）を意味するフランス語で、（文芸復興）との訳もかつてなされたが、現在ではそのまま片仮名書きされる。

宗教改革や地理上の発見、近代科学の誕生 といったエポックとともに、人文主義、世俗主義、合理主義、個人主義などの指標を積極的な意味で用いつつ、（暗黒時代）たる中世からの決定的な離脱を実現した輝かしい 近代の曙。その発祥はメディチ家が支配する自由都市フィレンツェ

ロレンツォ・デ・メディチの詩

「 春はうるわしくも
あわれ はかなきかな
今をこそ楽しみてあれ
何ごとも明日ありとは定かならねば 」



ウフィツィ美術館



メディチ家礼拝堂とセント・ローレンツ教会

「ルネッサンス」というと直ぐ芸術の話になるが、このルネッサンスがもたらした「知・精神の開放」写実・合理・論理的な考え方が新しい真実の発見や発明を促し、近代科学の誕生をもたらした。宗教改革 コペルニクス・ガリレオなどの地動説 そして コンパス・望遠鏡の発明は大航海時代を開く。人体・物理学の展開も目覚ましい。そして、これら数々の実証主義・経験の数々が芸術にも新しい技法を生み、生き活きとした文芸を生み出す。

ダビンチの冷静・均整の取れた空間構成・永遠性の「静」に対し、ミケランジェロの感性・生命の躍動の「動」

レオナルド・ダビンチは芸術のみならず科学にも長けた天才であり、数々の分野での数々の発見・発明が何冊ものノートにぎっしり記されている。そしてそれらの経験がああ素晴らしく魅力的な「最後の晚餐」や「モナリザ」に結実してゆく。



レオナルド・ダ・ヴィンチの多分野の発明・発見を記録したノートのひとつ

天才ミケランジェロも人体の研究を彫像・絵画のダイナミックな

表現に使い、ああ筋肉隆々の肉感的な人物像を描くと共に、ピエタやダビデ像に見られるごとく、写実的な構想の中に、自分の感じたままを彫像に刻み込み、人をひきつける魅力を与えた。

そして、レオナルド・ダビンチとミケランジェロ対峙するふたつの個性をまのあたりにして、これを模倣・勉強して数々の「聖母子画」「肖像画」の中に独自の繊細・柔和の中にもみる表情の美を描きこんだラファエロこれら 3 巨匠が短い間ではあったが、16 世紀初め、フェレンツェの街で互いを意識し・競いながらその個性を磨き、素晴らしい絵画・彫像の作品群を作っていた。レオナルドダビンチは既に名声を得ていた 50 歳前半 ミケランジェロは若き精鋭彫刻家の 20 代そして ラファエロはまだフィレンツェに出てきて間もないこれからのティーンエイジャー。



「モナリザ」

レオナルド・ダ・ヴィンチ



「最後の晚餐」



「ヒワの聖母」



「レオ 10 世」

ラファエロ



「最後の審判」



「ピエタ」

ミケランジェロ



「ダビデ」



ピサの斜塔とキューポラの中にあるガリレオのランプ

また、1564 ミケランジェロが亡くなる年にフィレンツェに近いピサの町で偉大な数学・天文学者ガリレオガリレイが生まれている。彼は当時の科学を根底から変え、現代科学の滝にわたる発展の土台を築き、「近代科学の父」と呼ばれる。自ら改良した望遠鏡による天体観察からコペルニクスの地動説を支持し、またピサのドームの高い天井からのランプの揺れから「振り子の等時性」を発見。また 斜塔で、物体の落ちてゆく様子を調べ、ニュートンの落下の法則のさきがけとなるなど教会の異端者となりながら、次々と新しい発見に挑戦していった。ルネッサンス期の偉大な人物として忘れる事は出来ない。

1492年のロレンツォの死後、一時、メディチ家はフィレンツェを追われるが、ロレンツォの弟（ジュリアーノ）の息子がクレメンテ7世として教皇位に付くと神聖ローマ帝国皇帝カール5世の援助を受け、再びフィレンツェにメディチ家を王とするトスカーナ大公国が誕生するが、1737年メディチ家が断絶し、その後他国の支配の中に組み込まれてゆく。

「ルネサンス」の特徴はダ・ヴィンチのような天才たちが万能の力を発揮し、芸術と科学の両輪があいまって飛躍的に社会が成熟発展した時代だといえる。また「ルネサンス」という言葉が今も我々の心をとらえて離さないのも、芸術と科学によって彩られたこの時代が歴史上、非常に生き生きとしているからであると聞いたが、フィレンツェ・ミラノ・ローマ・ピサを訪問し、実際に彼らが生き活躍した様子を知るにつれ、本当にルネッサンスのその躍動が見えてくる。

教科書では知らなかったことを次々見聞きして、ルネッサンスを生み出した人達が現代に甦ったような気がしている。

彼らの作品の芸術性はそれぞれの個性からできたものと簡単に考えていましたが、それらの作品製作にはそれぞれ独自の実験と実証に基づく数々の技法を取り込みその芸術性を高めている事など全く知らず。そして 高度に研ぎ澄ましたその技法がそれぞれの作品の芸術性そして個性となってほとぼしっている。従来の概念・技法にとらわれず、真実を在るがままの表現を求め、自由な発想・実験をやれた事それが「ルネッサンス」そのものであり、新しい時代の幕開けの原動力となつたとつくづく思っている。

イタリアの街を訪ねるツアーに参加して、街中を訪ねる中で幾度も幾度も聞いたルネッサンスの偉大な巨人とその足跡。

断片的に見聞きした事をデジカメ写真と見比べたり、思い浮かべたり、再度ガイドブックを読んだりしながら、自分なりにルネッサンス期の偉大な巨人の人物像をまとめ、家内と二人歩き回った街の総括としました。

2.1. レオナルド・ダ・ヴィンチ (1452~1519)



イタリア=ルネサンスを代表する芸術家・科学者。ルネサンス期の理想像「万能の人」の代表とされる。

フィレンツェ近くのビンチ村に生まれ、15歳でペロッキョの門に入り、絵画・彫刻・建築を修業するかたわら、数学・物理学・天文学・医学なども学んだ。

のちに独立してミラノにうつり、「最後の晚餐※」をかき、フランチェスコ=スフォルツァの騎馬像を制作。さらに軍事技術者として、要塞の設計、大砲と火薬、旋条銃などに独自の構想をしめし、そのために機械を研究して、ローラーベアリング、起重機や歯車による変速機構、自動印刷機など後の科学・工学技術の発達の基礎を成す数々の考案・発明した。

その後、フィレンツェにもどり、「聖アンナと聖母子」の下絵、「モナ=リザ※」などを制作。

晩年はフランスにうつり、科学研究に専念した。

彼は、「常には実践は正しい理論の上に構築されなければならない」と考え、実証的で合理的な精神につらぬき、彼の残したノートにはおびただしい量の工学、医学、天文学、流体力学、幾何学、音楽などのアイディアが、芸術的な図とともに記されている。

彼の描いた絵の代表作「最後の晚餐」にも数々の論理体系に基づく構図が用いられており、中心にいるキリストをクローズアップする効果を引き出している。

同時期のもうひとりの天才芸術家ミケランジェロが写実や論理よりも、自分が見・感じたままをそのまま絵や彫像に表現したのとは好対照。

お互いを相容れなかったことがうかがえる。

◆ レオナルド・ダ・ビンチの絵画

1466年フィレンツェに出て、ヴェロッキオの工房で絵画、彫刻を修業、師の「コレオーニ将軍騎馬像」制作に助手として参画し、「受胎告知」(1473年頃)、「ブノアの聖母」(1478年頃)などを描きました。

1482年ミラノに赴き「フランチェスコ・スフォルツァ騎馬像」の制作、サン・フランチェスコ聖堂のための祭壇画「岩窟の聖母」(1483年—1486年頃)や、サンタ・マリア・デレ・グラーツィエ聖堂に壁画「最後の晚餐」(1495年—1498年)を描きます。

1500年—1507年再びフィレンツェで活動し、軍事や土木事業に携わり、「聖アンナと聖母子」(1512年頃)、「モナ・リザ」(1503年—1510年頃)を制作。1517年フランソワ1世の招きでフランスに行き、建築、運河工事に従事しましたが、2年後に同地で没しました。



『受胎告知』

1475



『キリストの洗礼』

1472 - 1475



『東方三博士の礼拝』

1481 - 1482 (未完)



『最後の晚餐』

1495 - 1498



『モナ・リザ』

1503 - 1506

レオナルド・ダ・ビンチは「絵を描くことはあらゆる知識と技術を必要とする活動」と考え、力学、工学、生理学、解剖学など彼のあらゆる研究の成果をつぎ込んだ。したがって、彼の絵の制作には何年もかけ、何度も修正・書き直しを加えており、未完成の作品が多いのもうなずける。

◆ レオナルド・ダ・ビンチの科学技術分野での考案

レオナルドは科学技術の分野で絵画よりもさらに目覚ましい研究、活躍をし、それらは 13,000 ページに及ぶノートに芸術的な図とともに記録が残されている。これは左手でペンを持ち、鏡文字で記述されており、内容を秘密にしておきたかったこととか、ペンを押しながら書くよりも引きながら書くほうが楽であったため、以後鏡文字を使うことに決めたからなどといわれている。

彼の科学に取り組む姿勢は、あらゆる事実を、強調することなく論理的に詳細まで記述、描画し、物事を理解しようと努めるというものだった。

レオナルドは、人体の解剖に立ち会い、極めて詳細まで書き込んだ解剖図を多数作成している。それを元に人体及び解剖学を網羅する物を作る計画をしていた。1490 年頃、ノートで行った研究の中から、Canon of Proportions（プロポーションの法則）を発表。

「人体は円と正方形に内接する」というウィトルウィウスの記述の再発見としてよく知られた図の一つである。

また、常に飛行することに興味を持ち、鳥の飛行についての詳細な研究から、いくつかの飛行用装置を発明している。その中には 4 人の人力で飛ぶヘリコプターや簡易型のハンググライダーなども含まれている。



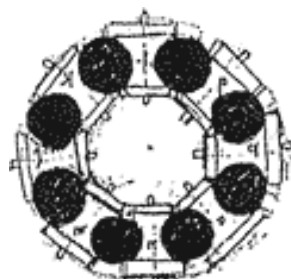
プロポーション図と数々の解剖図



ヘリコプター図



パラシュート図



ダ・ビンチの転がり軸受け

ノートには軍事関係の発明品や潜水艦、歯車を用いた史上初めての機械式の計算機、バネの動力で動く自動車など数々の考案図を残している

また、凹面鏡を用いて水を暖める太陽光線の工学的利用の研究や音楽の演奏及び作曲も行なっていた。

レオナルドはノートで行なった研究やその成果を発表したり広めたりしなかったため、19 世紀になるまではっきりと知られることはなかった。

彼の言葉に次のようなものがある。

「自然の不可思議の通訳者は経験である。我々は種々の場合や様々な状況の下で経験と相談しつつ、そこから初めて一般的規則を引出すことができる。自然は原因をもって始まり、実験をもって終るが、我々はその反対の道をとらねばならない。すなはち、我々は実験をもって始まり、実験をもって原因を探索しなければならない。」

レオナルド・ダ・ビンチは「絵を描くことはあらゆる知識と技術を必要とする活動」と考え、力学、工学、生理学、解剖学など彼のあらゆる研究の成果をつぎ込んだ。したがって、彼の絵の制作には何年もかけ、何度も修正・書き直しを加えており、未完成の作品が多いのもうなずける。

◆ レオナルド・ダ・ビンチとミケランジェロがフィレンツェで互いに競い合った 1501-1505 年

レオナルド・ダ・ビンチが再び フィレンツェに帰った 16 世紀初頭 フィレンツェには 25 歳年下のもうひとりの天才芸術家ミケランジェロが活躍していた。冷徹な知性を持つレオナルド・ダ・ビンチと男性的な激情・感性を持つミケランジェロは、1501年から1505年の間ともにフィレンツェにいてこの二つの才能が激しくぶつかり合った。

彫刻を重視するミケランジェロを意識して、レオナルドは「絵画は詩や音楽や彫刻などいっさいの芸術や学問に勝る最高の芸術だ」と主張した。

ミケランジェロは、レオナルドの絵画について、「あのくらいのものなら私の下男でももっとうまく描く。」と述べたという。

1504年、ミケランジェロのダヴィデ像を置く場所を決定する委員会が開かれた時、委員の一人として参加したダヴィンチは、ロτζィア・ディ・ランツィに置くという意見に賛同したが、結局はミケランジェロの希望どおりシニョーリア広場のヴェッキオ宮前に置かれたという。

また、同じ頃、ヴェッキオ宮の大会議室の相対する壁にダヴィンチはフィレンツェ軍がミラノ軍を打ち破った「アンギアリの戦い」、ミケランジェロはピサ軍に勝利した「カッシーナの戦い」絵を描くことで競い合った。

ミケランジェロは未完のうちに法王ユリウス二世の招きにに応じてローマへ移り、レオナルドは独自に調合した油性の絵の具で彩色を始めたが流れ落ち、断念し、いずれも未完のまま終わったという。(「アンギアリの戦い」は素描や模写が残されている)

その後、ミケランジェロはローマでシスティーナ礼拝堂の天井画を描き上げた後、正面の祭壇画「最後の審判」を注文されたが、彫刻に専念するため辞退していた。ダヴィンチは晩年に近い1513年からローマに住み、密かに最後の審判の構想を練っていたが、実現せず。ジュリアーノ・ディ・メディチが死亡したため、「メディチは予を育て、予を滅ぼした」という言葉を残してローマを去った。

結局祭壇画は、ミケランジェロが描き、彼の最高傑作と言われている。

「ルネサンス」の特徴はダ・ヴィンチやミケランジェロのような天才たちが万能の力を発揮し、芸術と科学の両輪があいまって飛躍的に社会が発展した時代であり、また「ルネサンス」という言葉が今も我々の心をとらえて離さないのも、芸術と科学によって彩られたこの時代が歴史上、非常に生き生きとしているからである。

2.2. ミケランジェロ・ブオナローティ（1475～1564）



レオナルド＝ダ＝ヴィンチと並ぶ イタリア・ルネサンスの巨匠の一人で、彫刻家・画家・建築家・詩人。

西洋の絵画の中で最も巨大な絵画の一つとも言われるシスティナ拝堂の天井フレスコ画や『最後の審判』、ヴァオリーナ礼拝堂にある、『聖ペテロの磔刑』、『パウロの改宗』を描いたことでよく知られている。また、『ピエタ』や『ダビデ像』等彫刻の分野でもすぐれた作品を数多く残した。バチカンの『サン・ピエトロ大聖堂』にあるドームの設計者でもある。

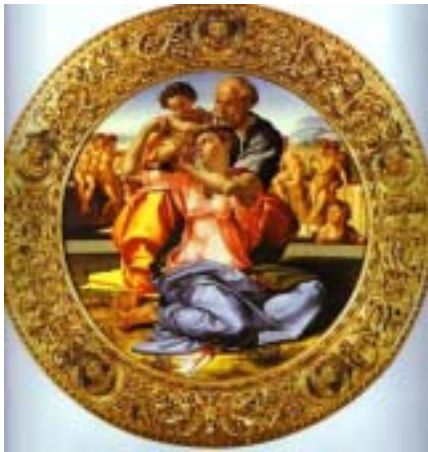
ミケランジェロは解剖学を重んじていた為、彼の描く肉体は男も女も筋肉まで緻密に描きこまれ、その肉体の躍動は人間自由と生命の賛美を極限までにルネッサンスを表現している。

1475 年 フィレンツェ共和国（現在のイタリアのトスカナ地方）カプレーゼに生まれ、幼少の頃から絵画や彫刻に興味を示し 13 歳でドメコ・ギルランダイオに弟子入りする。ドメニコは彼の才能に感心し、フィレンツェの支配者だったロレンツォ・デ・メディチに紹介する。

ミケランジェロはロレンツォの家に引き取られ、才能を磨くと共にそこに出入りする当代一流の文人・芸術家たちとの出会いの中で大きな影響を受け、激情的性格と相まってルネサンス理想主義のしめす精神性を一つの極北まで登りつめる独自の情熱的表現を生みだしてゆく。

ミケランジェロはここで『ケンタウロスの戦い』『階段の聖母』の二つの浮き彫りを制作している。

ロレンツォが亡くなった後の 1492 年、ロレンツォの最年長の息子でフィレンツェを治めていたピエロ・デ・メディチはミケランジェロのパトロンをやめたため、ミケランジェロはフィレンツェを離れる。その後すぐの 1496 年に聖ジョルジオ枢機卿がミケランジェロ作の大理石の天使を購入し、彼をローマへと招いた。ローマの古典美術の影響を受けながら、5 年の間とどまり、西暦 1499 年に初期の傑作「ピエタ（哀しみの聖母）像」を完成させると共に名声を上げてゆく。その後フィレンツェが共和制を回復するとフィレンツェに帰り、有名なダビデ像や『聖家族』などをこの時期に制作している。



聖家族 ウフィッツィ美術館



ダビデ像 シリョーニオ広場とミケランジェロ広場



ローマ サンピエトロ寺院 ピエタ像

1503 年、新しく即位した教皇ユリウス二世に教皇にローマへ呼び戻され、教皇の墓標制作をはじめ。

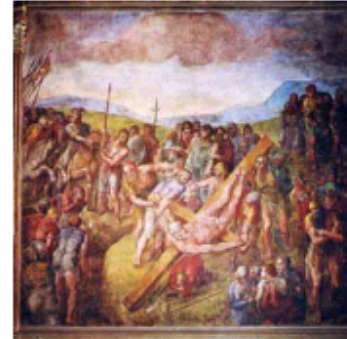
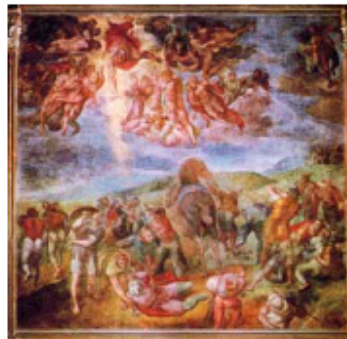
途中、バチカンにあるシスティーナ礼拝堂の壁画、天井画を含む巨大なフレスコ画の作成を命ぜられ、1508 年 - 1512 年の 4 年の歳月を費やしている。

教皇ユリウス二世が死に、教皇レオ十世がメディチ家より即位すると、新法皇レオ 10 世の命で 1516 年、フィレンツェに赴き、メディチ家の廟朝改築を手がけ、自らの構想による内装に合わせて、『暁』・『夕』など 4 体の彫刻を祭壇に配して、建築と彫刻のみごとに融合した造型空間を出現させる。

ついで 3 度ローマに出た彼は、1536 年から 6 年半、畢生の大作であるシスティーナ礼拝堂大壁画『最後の審判』に精魂を傾ける。中心に怒りのキリストを配したこの大群像は生涯をかけた彼の人体研究の集大成であるとともに、その激越なダイナミズムにおいて、すでにルネサンスをこえる予感を伝える。



システィーナ礼拝堂 祭壇画 最後の審判 と天井画 大洪水 楽園追放 アダム創造



ヴァチカンにある『パウロの改宗』 と 『聖ペテロの審判』



システィーナ礼拝堂の内部

バチカンにあるミケランジェロの壁画 画集より

レオナルド＝ダ＝ヴィンチとミケランジェロ ルネッサンス芸術の巨人であるが、その作風は対照的である。

レオナルドの“静”に対するミケランジェロの“動”。

前者が隈ずみまで均整のとれた調和的空間、永遠性を表す一種の理想空間を造型したとするならば、後者は人間の肉体と精神のもつあらゆる可能性、動いてやまぬ生命の動態の刻とを凝縮する一種の劇的な空間を生みだしてゆく。



システィーナ礼拝堂 祭壇画 最後の審判 と天井画 大洪水 楽園追放 アダム創造



ヴァオリーナ礼拝堂にある『パウロの改宗』と『聖ペテロの磔刑』



システィーナ礼拝堂の内部

バチカンにあるミケランジェロの聖画 画集より

2.3. ラファエッロ、サンティ Raphael,Santi (1483-1520)



イタリアルネサンス期の画家でレオナルドダビンチ・ミケランジェロと共にルネッサンスの三巨匠と呼ばれ、西洋絵画の古典として後の世代の画家に多大な影響を与えた。

聖母子画やヴァチカン宮殿の壁画、サンピエトロ大聖堂の建築監督などで有名。

1483年、ウルビーノに生まれる。ペルージャの画家ペルジーノに師事し、のちフィレンツェやローマで活躍。

37歳の若さでローマに没して、王と貴族が埋葬される古代ローマ建築のパンテオンに眠っています。

代表作「アテネの学堂」は、ヴァチカン宮殿「署名の間」を飾る大壁画。当時の教皇ユリウス2世の委嘱を受けて制作したもので、当時ラファエロは20歳代半ばの若さであった。古代ギリシアの哲学者、科学者

などを描いた「アテネの学堂」の画面の中央に位置するのはプラトンとアリストテレスで、それぞれレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロがモデルとされている。

37年の短い生涯でありながら、ダヴィンチやミケランジェロのような派手さはないものの、優雅でバランス感覚に優れたその作品は、先人二人の「模倣の天才」と揶揄されながらも、二人の強烈な個性に負けることのない繊細で柔らかな独自の美の世界を築き、19世紀までのながきにわたり西欧絵画の美の基準としてあがめられた。

イタリア中部のウルビーノ生まれ。ペルージャの画家ペルジーノに師事し、21歳でフィレンツェに来た。そのとき、ミケランジェロは29歳、ダ・ヴィンチは52歳であった。二人の個性的な天才の後を追うかのごとく現れたのがラファエロであった。当時はまだただの田舎者の画家でしかなかった彼に教会が宗教画を依頼することなどなく、彼は個人の注文主を見つけては肖像画や聖母子像を中心に絵



ヴァチカン宮殿「署名の間」を飾る大壁画「アテネの学堂」



《ひわの聖母》



レオ10世



ラファエロの自画像

ウフィツィ美術館にあるラファエロのフィレンツェ時代の力作

を描いていましたが、師の才能をすべて吸収する天性を持つ彼はフィレンツェに来てからも、ミケランジェロとダ・ヴィンチからも多くを学んで成長し、いつしか「聖母の画家」と呼ばれるようにまでになります。

「ヒワの聖母」や「自画像」「ルイ 10 世の肖像」などのフィレンツェ時代の絵がウフィツィ美術館に残されている。

25 歳以後ローマ法王に仕えヴァティカーノ宮において、天井画をはじめ多くの壁画を制作し各部屋を飾った。とくに「アテナイの学堂」は有名。優れた技法の修得再現は天才的であった。

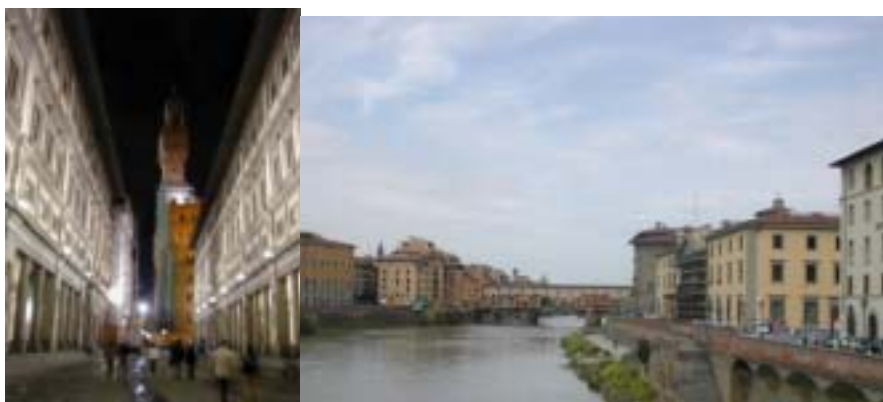
この時期、彼は画家として非常に恵まれた状態にいたが、1520 年、突然の高熱により亡くなってしまう。三十七歳であった。

ラファエロの聖母子像では多くの場合 複数の人物を置くピラミッド型の構図の中で実に落ち着いた静かな調和によって描かれ、また、背景に描かれる丘などの穏やかな風景の広がりの中でよい均衡を保っているといわれる。

レオナルド・ダ・ビンチに見られる複雑な計算された構成と緊張感から脱却し、やわらかい人間的な表情 それでいてミケランジェロの肉感的激しさのない暖かさがじかに伝わってくる。

ミケランジェロやレオナルドダビンチにはないラファエロの独自の生き活きた画風を作り出し、ルネッサンスの新しい風を巻き起こしている。

この画風のごとく、ラファエルは端正な顔立ちで幕張りの聞く社交的な人物であったので、画工から教皇まで幅広く愛されたという。



夜のウフィツィ美術館とアルノ川からベツキオ橋界限
フィレンツェ



ラファエロの墓があるパンテオン神殿
ローマ

2.4. 「近代科学の父」「ガリレオ・ガリレイ」(Galileo Galilei) 1564-1642.



フィレンツェ サンタクローチェ教会にあるガリレオの墓

ガリレオ・ガリレイは 1564 年 2 月 15 日、イタリアのピサで生まれた不世出の偉大な数学者・天文学者の一人。当時の科学を根底から変え、現代科学の多岐にわたる発展の土台を築き、「近代科学の父」と呼ばれる。

ピサのドームの教会で祭壇の前のランプが揺れるのを見て「振り子の等時性」を考えたとか、その隣に建っている斜塔で、物体が落ちていく様子を調べるために実験をしたとか伝えられています。

また、自ら改良した望遠鏡で宇宙を観測し、「地球は太陽の周囲をまわっている。従って、地球は宇宙の中心ではない。」というコペルニクスの説を立証する証拠を収集した。彼がコペルニクス説を支持したことは、当時信じられていたカトリックの教義への挑戦とも言える大胆なことであった。

結局、ガリレオはカトリック教会から異端者として審問にかけられた。

そして、自分の唱えた説を取り消さなかったため、自宅に監禁され、8 年後にこの世を去った。

「それでも地球は動く」と、そのあとガリレオはつぶやいたという。

1992 年、コペルニクスと同じポーランド出身のローマ法王ヨハネ・パウロ 2 世は、ついにガリレオの破門を解いたのである。ガリレオの有罪判決(1633 年)から実に 359 年後のことであった。

ガリレオの墓は、アルノ川のほとりにあるウフィッツ美術館やベッキオ橋の西にあるサンタ・クローチェ教会にあり、ミケランジェロやダンテなどルネッサンス期の多くの偉人と一緒に眠っている。彼の棺の上には望遠鏡を持ち、空を仰ぐ大理石の胸像が配置されている。両脇には 2 人の女性が控えている。

また彼の業績はすぐ近くのアルノ川沿いの科学史博物館に展示されているが残念ながら入ねことが出来なかった。



サンタクローチェ教会とガリレオ・ガリレイの墓



フィレンツェからバスでハイウェイを約1.5時間海岸まで走った所にあるピサにも行ってきました。

ガリレオが数学の教授となり、有名なピサの斜塔で落体の実験をした話や隣接する大聖堂の天井から吊り下げられたシャンデリア（ランプ）の揺れるのを見て、自分の脈拍で周期を測り、振り子の等時性を発見したという話が伝わっています。

塔へ上って落体の実験をしてみたい気持ちにかられていましたが、残念ながら塔には登れず。斜塔を支えるポーズで写真をとってきました。

また、隣接する大聖堂の中央部には高い天井から長い鎖で吊り下げられたラ

ンプが在りました。 まっすぐ垂直に静止していましたが、おそらくゆっくりと左右にゆれ、脈拍を取って振り子の周期を測定したのでしょう。

本当にグッドなアイデアの数々 根っからの科学好きで次々アイデアが湧くとすぐさま装置を作ったり、その場で実験したのでしょう。現場実証主義のさきがけ。

これらのみならず、当時先駆けとなった望遠鏡を改良して天体観測を晩年までつづけたり、ガリレオの温度計と呼ばれる温度計やコンパスも・・・

こんな実証機器の発明と実証主義に基づく数々の発見が教会の権威主義に対立したのですが、「近代科学の父」と呼ばれるゆえんでしょう。

また、このピサの大洗礼堂の中に入って聞いた 響き渡る残響の美しさ これも本当に計算されたものでしょうか・・・



ピサの大聖堂に吊り下げられている「ガリレオのランプ」

洗礼堂の警備の人が中央に立ってドーム天上に向かって「あああ～」と歌うとそれが幾重にも重なり合って、素晴らしいハーモニー。

おそらく ガリレオも聞いたでしょうが・・・

素晴らしい神秘の世界に入ったような気がしました。

この洗礼堂のテッペンから見る緑広がる景色と共に本当に素晴らしい雰囲気こんな中から数々の物理的大発見のアイデアが生まれたのでしょう。



● レオナルド・ダ・ヴィンチ 「最後の晚餐」鑑賞



「最後の晩餐」 撮影禁止で撮れなかったので画集より

史上最高の傑作の1つに数えられているこの絵は、乾いた壁に絵具で描かれている。実験意欲旺盛なレオナルドが新種の絵具を使ったのが裏目に出て、彼が生きている間に既にひび割れや剥離が始まって、没後、大きな修復だけでも6回行われ、人物の表情まで幾らか変わってしまったと言われる。

イタリア文化省による1977から20年かけた修復作業の過程で「オリジナルの筆ではキリストの口が僅かに開いていたとか、ユダの顔が真横ではなくもっと画面奥を向いていたとか」の様々な新発見が次々と見つかったが、中でも圧巻なのは、「画面中央のキリストの右のこめかみに釘の跡が発見されたこと」である。ルネッサンスの時代には、絵画の世界で遠近法が大発展を遂げたがその遠心点の位置である。

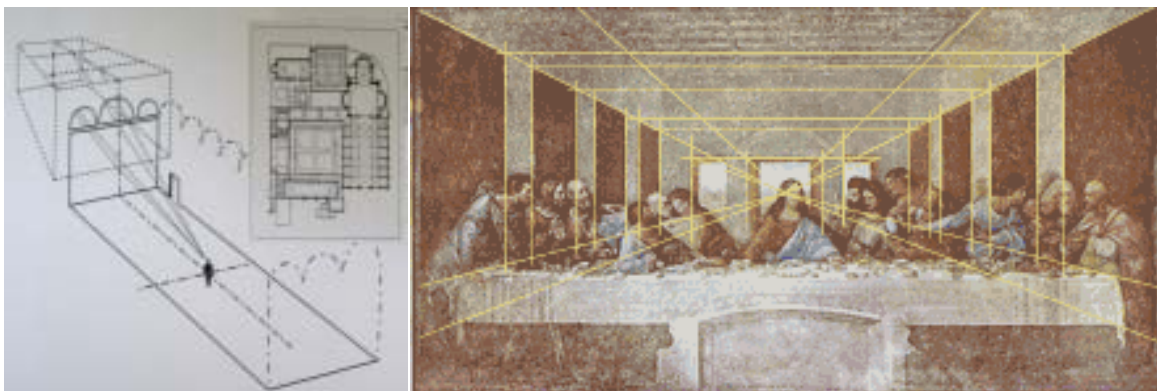
2004.5.11. ミラノ サンタ・マリア・デレ・グラッツェ教会

ミラノの街の中 サンタ・マリア・デレ・グラッツェ（恩恵の聖母マリア）教会の元の修道院の食堂にあり、レオナルド・ダ・ヴィンチがこの絵を描いたのは1495～98にかけて。

「あなた方のうちの1人が私を裏切ろうとしている」と12人の弟子たちに発言をするイエス。

その劇的な一瞬を切り取った絵で、弟子達の中に驚愕と動揺が巻き起こる様が3人ずつ4つに分けられた弟子達の動きの中に劇的に表されている今回は是非見たいと楽しみにしていた絵である。ミラノの旧市街の中にあるサンタ・マリア・デレ・グラッツェ教会の完全空調された旧食堂の北壁の上部一面に描かれていました。この絵を見るために世界からの人が集まり、見る時間は15分間でしたが、やっぱり凄い感動でした。





『最後の晩餐』は縦四・五メートル、横八・八メートルという大変に大きな絵だが、レオナルド・ダ・ヴィンチはまずキリストの下絵を書いてそのこめかみに釘を打ち、そこから放射状に糸を張って奥行き方向の構図を決めていった。実際に絵に物差しを当ててみれば、両側の壁と天井とが交わる線、壁に掛かるタペストリーの上縁、テーブルの左右両端の線などが、全て正確にキリストの右こめかみに集まっているのが分かる。この中心が見つかったことで、描かれた部屋の形が正確に立体的に把握できた。

ある位置から見ると、絵画の天井の線と実際の壁と天井との境目がつながり、部屋が壁の奥方向へと広がって見えるよう描かれており、また、「最後の晩餐の様子を演じた舞台の様子として描いている」とも言われる。

正確な部屋の構造を絵から推察すると登場人物達から背後の窓の間には、何もない空間が十メートル以上にわたって広がっているという。

両側の壁には大きなタペストリーが四枚ずつ貼られている程だから、背後の空間が異常に大きいのは間違いない。

もし、常識的に背後の空間を狭くすると画面に占める窓の外の景色の比率が高くなって背景に目が行って、人物達が織り成す様々な表情の印象が急激に薄れてしまう。

その背景を不自然さを感じさせない限度にまで極力小さくして、主題である人物達を強調して浮かび上がらせている。

12 人の弟子たちはそれぞれ3人ずつ4つのグループに分け、それぞれが円形の構図でキリストを取り囲むように描かれ、その中心にはどっしり正三角形の構図で、キリストがいる。すべてがキリスト中心にクローズアップされるように工夫されている。

弟子たちは顔よりも手の形によって表情が表現されており、様々な手の表現がこの絵画の大きな特徴の一つといわれる。

また、この時代までの最後の晩餐の絵画は聖人には必ず後光をつけ、裏切り者とされたユダには後光が無いのが通常で、また、横長のテーブルに一人だけ手前側に座るなどの構図で明らかに区別されて描かれていた。

しかし、レオナルドは12人の弟子を等しくテーブルの奥側に配置し、後光も描かなかった。かわりにキリストの背後に明るい外部の景色を描き、ユダの手には



銀貨を入れた袋を持たせ、顔に陰をいれることで区別が計られている。
遠近法、背景、弟子の表情、手の動き、目線、配色、構図など、あらゆる点で中央のキリストに注目が集まるよう工夫がされた結果である。

これらの配置 人物の表情 そして背後の風景にいたるまで、丹念に計算・検討し 数々の素描を繰り返し、膨大なメモを基にこの絵の設計を行っている。一度テレビで修復作業と共にこの絵のスゴサならびにダビンチの計算された技法が紹介されビックリしましたが、眼前にこの絵を見て、耳に流れてくるナレーションを聞いているとダビンチのその分析力・構成力のすごさに改めてビックリするとともに画家には苦手と想像していた数々の科学的手法を念密に計算構成していることにビックリすると共に技術者・研究者の姿をダブらせていました。

レオナルド・ダ・ビンチは、画家であると同時に天才的な科学者・建築家でもあり、絵の素描ばかりでなく、彼のノートには緻密な絵と共に数々の発見・発明の原理や設計が記されている。

その範囲は工学・人体解剖・光学など多岐に渡っており、現代に通ずる驚くべき物が多い。

レオナルドの絵画手法はこれら自らが手がけた科学的手法（解剖学や光学 など）にもとづくものであり、それらを使った、構成力のすごさも見逃せない。単にひとりの天才的な人物の思いつきがこの素晴らしい絵を作り上げたまででない事を知り、本当にビックリです。



レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」のノート 一部

「最後の晩餐」の絵を「宗教画」としてこの絵を見るのが基本でしょうが、技術屋の私にとっては、ルネッサンスを引っ張っていった天才の巨匠。その裏にあった実証と観察に徹して得た技術そしてそれらを駆使して新しい道を切り開いた構成力 「革新の原動力となった科学的な眼と実践の姿」にルネッサンス期の躍動する街の姿をイメージして、新たな感動を覚えています。

静かな落ち着いた絵でありながら、激しく訴えてくる感動は宗教画の精ばかりでなく、しっかりした構成による深い奥行きのある絵の為であろう。それが、人々を揺り動かし、革新の時代を作った。レオナルドダビンチの個性が其処にある。

レオナルド・ダ・ヴィンチ の 言 葉



ミラノ スカラ広場
レオナルド・ダ・ヴィンチの像



「智恵は経験の娘」である。

自然を観察して追求し一般法則を得るためには

「二度 三度それを試験して、その試験が同一の結果を生ずるか否かを観察せよ」

「ただ想像だけによって自然 と人間との間の通訳者たらんと欲した芸術家連を信じるな」

「実験から開始して、それによって理論を 検証する」と。



レオナルド・ダ・ヴィンチの種々の分野の発明・発見を書き記したノート

● ラファエロ・サンティの「ヒワの聖母」を訪ねて 2004.5.14. フィレンツェ ウフィッツィ美術館



シリョーニオ広場とウフィッツィ美術館



ダビンチの「聖アンナと聖母子」1497



フィレンツェ ベッキオ端

聖母画家と呼ばれ、本当に美しい聖母像を書くラファエロ。

フィレンツェのウフィッツィ美術館に代表作の「ヒワの聖母」1505年22歳の作が在る。花の都フェレンツェ その中心シニョリーア広場。人でごった返すシニョリーア広場の端からミケランジェロのダビデ像のすぐ横を通り抜けるとウフィッツィ美術館。

ウフィッツィとはオフィスの意味。今ははだれもが憧れるルネッサンス絵画の宝庫。一度では全部回りきれないが、カイドのスムーズな案内でボッチェチェリの「春」「ヴィーナス誕生」やレオナルド・ダビンチの「受胎告知」しっかり見ましたが、残念ながらラファエロ「ヒワの聖母」修理中でみられず。

ボッチェチェリの大作「春」の華やかな美しさの漂う人物像も素晴らしかったのですが、このラファエロのシンプルで物静かな美しさもすがすがしい。また、ダビンチの「受胎告知」のマリアの神々しさ硬さに対して柔らかな人間的魅力を感じましたが残念。

でもルイ 10 世像などの作品、ラファエルのシンプルで魅力には触れる事が出来ました。

「ヒワの聖母」は、本を手にした聖母の膝の間に、息子イエスと幼い洗礼者ヨハネが持つヒワを描いている。

敬愛していたレオナルドの描いた「聖アンナと聖母子」の三角形の構図で描かれているが、其処にダビンチの人物像の影はない。ラファエロの聖母である。

ダビンチの冷静・均整の取れた空間構成・永遠性「静」に対し、ミケランジェロの感性・生命の躍動「動」そして、対峙するこれらふたつの個性を模倣・勉強して数々の「聖母子画」「肖像画」の中に独自の繊細・柔和の中にみる表情の美を描きこんだラファエロ。本当に若くしてよう逝したのが惜しまれる。

● フィレンツェ・ローマにミケランジェロを訪ねて 2004.5.15.& 5.17.

— フィレンツェの街に立つダビデ像とローマ サンピエトロ寺院のピエタ像 —

1. フィレンツェで



ベッキオ宮とその前に建つミケランジェロ作 ダビデ像

天才ミケランジェロ 人体の研究をダイナミックな彫像・絵画表現に使い、自分の感じたまま見たままにあの筋肉隆々の肉感的な人物像を描く。

ダビンチの冷静・均整の取れた空間構成・永遠性の「静」に対し、ミケランジェロの感性・生命の躍動の「動」と言われる。

もう 30 年前バチカンで見た「最後の審判」が頭に浮かぶ。本当にがっちりした壮大な人物像群に圧倒された記憶がある。

でも、まだ少年であったミケランジェロがその才能を磨いたのはメディチ家の保護を受けたフィレンツェ。そして 19 歳でローマに出て 5 年ローマにとどまり名声をあげる。

青年時代の傑作「ピエタ」像がここで生まれる。

その後再びフィレンツェに戻り、「ダビデ」像や絵画「聖家族」などの代表作を生む。

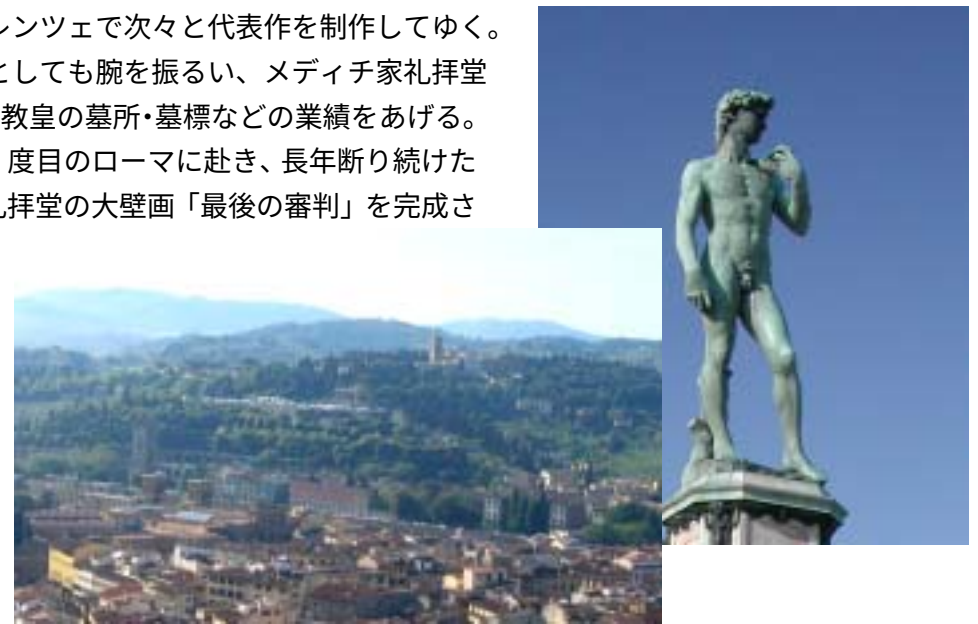
そしてローマ教皇の庇護と命にもて遊ばれながらも、ローマとフィレンツェで次々と代表作を制作してゆく。

また、建築家としても腕を振るい、メディチ家礼拝堂の改築やローマ教皇の墓所・墓標などの業績をあげる。

功なった晩年 3 度目のローマに赴き、長年断り続けた

といわれるが、1536 年 61 歳のときから 6 年半の歳月をかけて、システィーナ礼拝堂の大壁画「最後の審判」を完成させ、546 年 72 歳より、エトロ寺院の設計に参画し建設推進に死ぬまでかかわる。

フィレンツェの街の中心シニョリーア広場のヴェッキオ宮殿の入口ならびに街を見下ろすミケランジェロ広場にダビデの像(コピーで現物はアカデミア美術館)が立つ。この像の建立場所について、レオナルド・ダ・ヴィンチとミケランジェロが対立し、二人の関係が急速に悪化したといわれる。本当に若者らしい筋肉竜流の上げるほど大きな彫像である。ミケランジェロの激情がふつふつと伝わる彫像である。ミケランジェロもレオナルド・ダ・ヴィンチと同様解剖学に長じ、人の体をそっくりそのまま彫像や絵画に仕上げているが、レオナルド・ダ・ヴィンチが描く人間像よりももっと人間的でダイナミック。



ミケランジェロ広場と其処に建つダビデ像

解剖学に基づく人体の構造を写実的に作り上げていく技法は同じなのに、このダビデの像にみる躍動する若々しさはどこからくるのか・・・

ガイドの人から聞いてなるほどと思ったのですが、見上げる手がグローブのように大きい。ミケランジェロは写実的でありながら、均整よりも自分の見たまま感じたままを大事にしてそのイメージを作り上げた。おそらく見上げる若々しさを手の大きさに感じたのであろう。そういう意味ではミケランジェロがこの彫像が建てられる場所にこだわったのも頷ける。やっぱり野外でないと・・・・・・。私たちがもうひとつ野外のミケランジェロ広場に建つダビデ像を見たのは快晴の朝。

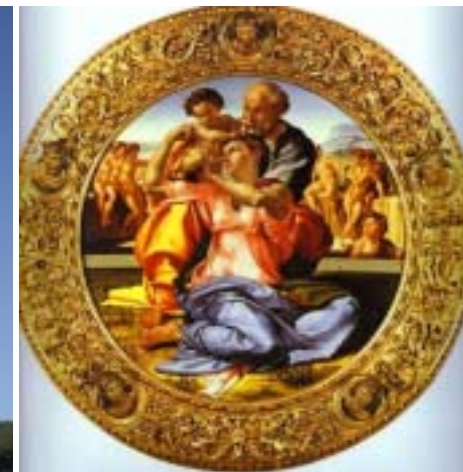
フィレンツェの街を見下ろす丘で真っ青な空をバックに慄然と建っている姿も実にダイナミックであった。

また、ミケランジェロが描く「聖家族」の絵がウフィツィ美術館にあった。

筋肉隆々のダイナミックなマリア。ミケランジェロのマリアである。



ダビデ像 ミケランジェロ広場



聖家族 ウフィツィ美術館

「どこかの農婦をマリアにしあげたのか・・・」といわれたというほどこの絵もダイナミックである。

同時期聖母を描いたラファエロ・ダビンチが圧倒されたエネルギーをミケランジェロには感じる。

ミケランジェロの作品はすべて筋肉隆々のダイナミックな人物像。 そんな風に思っていました。

でもローマのバチカンで見た「ピエタ」像 悲しみにくれる聖母をもののみごとに現している。これもビックリ出した。

ローマバチカンのサンピエトロ寺院。老朽化したこの巨大寺院の全面的な再建が1506年にはじまり、遅々として進まぬ建設が1546年72歳のミケランジェロが設計建設に加わりスピードがぐわわり、1564年死ぬまで再建にかかわる。現在見られるクーポラはミケランジェロの設計である。

たくさんの観光客に混じって教会の中に入ってすぐの所に多くの人がむらがり、其処に若きミケランジェロ作の「ピエタ」像があった。



ローマ サンピエトロ寺院



ミケランジェロ作
「ピエタ」像

巨大な聖堂の空間がずっと奥のほうに広がっていく一番手前の右の壁側のところにぼんやりと光があてられ、祭壇の向こうに静かに安置されていた。



ミケランジェロ 「ピエタ」像

「ピエタ」 十字架にかけられた息子イエスをひざに抱きかかえ悲しみにくれる聖母像である。フィレンツェで見たミケランジェロのダイナミックな作品とはおおよそかけ離れた静かなマリアが表現されており、心を打つ。ダイナミックだけでない繊細なミケランジェロの表現がひしひしと伝わってくる。そうはいかなかったが、本当に何時までもここに立っていたい感じがした。青年キリストを母が抱くこのシュチエーション 本当の現実ならば、母マリアに対して息子キリストはもっと大きくマリアのひざには納まりきらないはずだという。いままで、何度かこのピエタ像写真やなんかで見ましたが、全く知りませんでした。悲しみを表すミケランジェロにとって、大きなひざに抱かれるマリアが大きく写り、その表現がそのまま悲しみを深くしているのか……。ミケランジェロの繊細な違った面とともに正面に立って見たピエタ像は写真では得られぬ深さを覚えた。ダビデ像といい、これから発展していく若きミケランジェロのこの表現はやっぱり天才である。残念ながらシスティーナの礼拝堂は休みで入れずでしたが満足。

このサンピエトロ寺院の大きさとダイナミックにして繊細な表現の中に浮き上がってくる人間的な人物像ダビンチの表現がまだ神に近い硬い表現に対し、感情がもろに伝わってくる。

ダ・ヴィンチほど科学者としての業績・役割は知らないが、この巨大壮麗なサンピエトロ寺院の設計を見るとやっぱり、この方面でも天才だったろう。

フィレンツェには、ローマ法王の命により ミケランジェロが取り組んだ改築・墓所整備に取り組んだメディチ家の菩提寺サン・ロレンツォ教会やメデチ家礼拝堂がある。また、多くの文人と共にミケランジェロが眠るサンタ・ローチェ教会はシリョーニオ広場からすこし、東にはいったところにある。



セント・クロチェ教会とミケランジェロの墓
フィレンツェ



メディチ家の菩提寺サン・ロレンツォ教会と
メディチ家礼拝堂 フィレンツェ

● 「近代科学の父」 「ガリレオ・ガリレイの「ピサ」を訪ねて 2004.5.15.



フィレンツェ サンタクローチェ教会にあるガリレオの墓

ガリレオ・ガリレイは 1564 年 2 月 15 日、イタリアのピサで生まれた不世出の偉大な数学者・天文学者の一人。当時の科学を根底から変え、現代科学の多岐にわたる発展の土台を築き、「近代科学の父」と呼ばれる。

ピサのドームの教会で祭壇の前のランプが揺れるのを見て「振り子の等時性」を考えたとか、その隣に建っている斜塔で、物体が落ちていく様子を調べるために実験をしたとか伝えられています。

また、自ら改良した望遠鏡で宇宙を観測し、「地球は太陽の周囲をまわっている。従って、地球は宇宙の中心ではない。」というコペルニクスの説を立証する証拠を収集した。彼がコペルニクス説を支持したことは、当時信じられていたカトリックの教義への挑戦とも言える大胆なことであった。

結局、ガリレオはカトリック教会から異端者として審問にかけられた。

そして、自分の唱えた説を取り消さなかったため、自宅に監禁され、8 年後にこの世を去った。

「それでも地球は動く」と、そのあとガリレオはつぶやいたという。

1992 年、コペルニクスと同じポーランド出身のローマ法王ヨハネ・パウロ 2 世は、ついにガリレオの破門を解いたのである。ガリレオの有罪判決(1633 年)から実に 359 年後のことであった。

ガリレオの墓は、アルノ川のほとりにあるウフィッツ美術館やベッキオ橋の西にあるサンタ・クローチェ教会にあり、ミケランジェロやダンテなどルネッサンス期の多くの偉人と一緒に眠っている。彼の棺の上には望遠鏡を持ち、空を仰ぐ大理石の胸像が配置されている。両脇には 2 人の女性が控えている。

また彼の業績はすぐ近くのアルノ川沿いの科学史博物館に展示されているが残念ながら入ねことが出来なかった。



サンタクローチェ教会とガリレオ・ガリレイの墓



フィレンツェからバスでハイウェイを約1.5時間海岸まで走った所にあるピサにも行ってきました。

ガリレオが数学の教授となり、有名なピサの斜塔で落体の実験をした話や隣接する大聖堂の天井から吊り下げられたシャンデリア（ランプ）の揺れるのを見て、自分の脈拍で周期を測り、振り子の等時性を発見したという話が伝わっています。

塔へ上って落体の実験をしてみたい気持ちにかられていましたが、残念ながら塔には登れず。斜塔を支えるポーズで写真をとってきました。

また、隣接する大聖堂の中央部には高い天井から長い鎖で吊り下げられたラ

ンプが在りました。 まっすぐ垂直に静止していましたが、おそらくゆっくりと左右にゆれ、脈拍を取って振り子の周期を測定したのでしょう。

本当にグッドなアイデアの数々 根っからの科学好きで次々アイデアが湧くとすぐさま装置を作ったり、その場で実験したのでしょう。現場実証主義のさきがけ。

これらのみならず、当時先駆けとなった望遠鏡を改良して天体観測を晩年までつづけたり、ガリレオの温度計と呼ばれる温度計やコンパスも・・・

こんな実証機器の発明と実証主義に基づく数々の発見が教会の権威主義に対立したのですが、「近代科学の父」と呼ばれるゆえんでしょう。

また、このピサの大洗礼堂の中に入って聞いた 響き渡る残響の美しさ これも本当に計算されたものでしょうか・・・



ピサの大聖堂に吊り下げられている「ガリレオのランプ」

洗礼堂の警備の人が中央に立ってドーム天上に向かって「あああ〜」と歌うとそれが幾重にも重なり合って、素晴らしいハーモニー。

おそらく ガリレオも聞いたでしょうが・・・

素晴らしい神秘の世界に入ったような気がしました。

この洗礼堂のテッペンから見る緑広がる景色と共に本当に素晴らしい雰囲気こんな中から数々の物理的大発見のアイデアが生まれたのでしょう。







聖堂には金装飾の高い天井から「ガリレオのランプ」が今も吊られている

ガリレオやミケランジェロの墓のあるサンタ・クロチエ教会



ガリレオ・ガリレイの墓

ミケランジェロの墓